

基準6 教育の成果

(1) 観点ごとの分析

観点6-1-①： 高等専門学校として、その教育の目的に沿った形で、課程に応じて、学生が卒業(修了)時に身に付ける学力や資質・能力、養成しようとする人材像等について、その達成状況を把握・評価するための適切な取組が行われているか。

(観点に係る状況)

準学士課程においては、資料6-1-①-1に示したような人物像の育成を行っている。それらに基づいて履修及び修得する科目を配置し、年4回の定期試験の実施で学力の把握や評価を行っている。各定期試験における学生の成績は、教員会議において全教員で検討され確認がなされる(資料6-1-①-2)。また、教務委員会で成績・出席不良の学生には、定期試験ごとに保護者と本人に通知書を出して、状況の連絡と指導がなされている(資料6-1-①-3, 4)。

学年末試験や卒業認定試験、席上課程修了試験については、資料6-1-①-5に示す成績一覧表により教員会議で審議される。工業系学科では、資料6-1-①-6に示す選択科目受講一覧表から選択科目の適正な科目履修状況が確認されている。また、商船系学科については、席上課程修了時に三級海技士第1種船舶職員養成施設の単位の確認及びSTCW条約の救命講習の受講確認(資料6-1-①-7)について教員会議で席上課程修了判定資料(資料6-1-①-8)に基づき審議して、席上課程修了認定を行っている(資料6-1-①-9)。

卒業研究については、卒業研究中間発表、卒業研究発表(資料6-1-①-10)を経て、卒業論文の提出により、各学科の分科会で達成状況を把握し判定を行っている。

学生の学習達成度を把握・評価するため、「学習達成度アンケート」を実施しており(資料6-1-①-11)、アンケート結果は自己点検評価委員会で分析し、教育改善に役立っている。

専攻科課程においては、資料6-1-①-12に示したような人材の育成を行っている。研究については、学生の提出する研究日誌(資料6-1-①-13)と指導教員より提出される研究指導報告書(資料6-1-①-14)により専攻科委員会で検討され、現状の確認と指導が行われている。また、特別研究については、研究の進捗を確認するため中間発表(資料6-1-①-15)の実施や他高専との研究交流会(資料6-1-①-16)での発表等により、専攻科委員会で研究能力の把握と評価を行っている。

専攻科の修了認定は、特別研究最終審査発表会(資料6-1-①-17)を経て、修了認定資料(資料6-1-①-18)により資料6-1-①-19に示しているように、専攻科委員会で確認した後、教員会議で審議し、専攻科の修了認定を行っている(資料6-1-①-20)。

また、資格取得やコンペティション等を奨励しており、それぞれ担当教員を配置している(資料6-1-①-21)。

(分析結果とその根拠理由)

人物像の育成等に照らして履修及び修得する科目を配置し、全体の達成状況の確認を教員会議で行っている。教員会議の前に、教務委員会、専攻科委員会、分科会で十分に把握・評価が行われている。学生の学習達成度アンケート結果は、自己点検評価委員会で分析し、教育改善に役立っている。

以上のことから、学生が卒業（修了）時に身に付ける資質・能力、養成しようとしている人物像等について、適切な取り組みが行われているといえる。

資料6-1-①-1

教育方針

- (1) 自然科学および専門技術の基礎力を身につけ、高度化かつ多様化してゆく科学技術に柔軟に対応できる人材の育成
- (2) 身の回りの諸現象、特に海をとりまく自然・文化・歴史に好奇心を抱き、多角的に考えたり調べたりできる、独創力のある人材の育成
- (3) 日本および世界の文化や社会に関心をもち、国際的視野でものがみられ、しかも人間として、技術者として高い倫理観をもった人材の育成

教育目標

- 教養教育
幅広い視野に立った総合的な判断能力、斬新な創造力を備えた実践的技術者育成のための基礎的能力の涵養と教養の育成
- 商船学科
船員教育を基盤にした海事総合科学を身につけた技術者の育成
- 電子機械工学科
ものづくりのできる実践的な技術者－計画・設計から生産・保守運用までできる技術者－の育成
- 情報工学科
情報リテラシー、情報工学の知識に加え、問題分析、解決能力を備えたシステム技術者の育成

(出典：平成25年度シラバス巻頭)

資料6-1-①-2

商船学科成績一覧表（平成24年度学年末試験）

個人情報等保護のための削除

（出典：平成24年度第18回教員会議資料）

平成24年11月3日

保護者 殿

弓削商船高等専門学校
教務主事 濱中 俊一

出席不良について（通知）

前期期末試験が終了した段階で出席状況が芳しくない学生につきまして、前期期末試験までの出席状況を保護者の方にお知らせしています。

学年末の段階で、各科目の欠課時数が1単位当たり10回を超えますと、その科目の履修が認められず進級できません。欠席や欠課は、病気などの事由によるものを対象にしており、10回まで授業を休んでよいというものではありません。

「ずる休み」は、学生の本分である勉学への意欲欠如の現れです。留年者が出ないように、担任による指導をしていますが、保護者におかれましても学生の出席状況を十分に把握され、ご指導くださいますようよろしくお願いいたします。

なお、出席不良で悩まれている保護者におかれましては、年2回実施される学級担任による懇談会を活用されたり、あるいは来校され担任にご相談いただけたらと思います。

記

学科・学年 《学科学年》
氏 名 《氏名》

出席不良の科目数 《出席不良の科目数》 科目

(注) 出席不良通知の基準：1単位当たり5回以上の欠席

(出典：学生課)

資料6-1-①-4

平成24年11月3日

保護者 殿

弓削商船高等専門学校
教務主事 濱中 俊一

成績不良について（通知）

前期期末試験が終了した段階で勉学状況が芳しくない学生につきまして、前期期末試験の成績状況を保護者の方にお知らせしています。

学年末成績で60点未満の科目が3分の1を超えますと再試験を受ける資格が無くなり、進級できないこととなります。

まだ年度の2分の1が経過した時点ですので、これから本人の努力と自覚で成績向上が可能ですし、またそれを期待しております。

留年者が出ないように、担任による指導をしていますが、保護者におかれましても成績状況を十分に把握され、ご指導くださいますようお願いいたします。

なお、学業成績が不振で悩まれている保護者におかれましては、年2回実施される学級担任による懇談会を活用されたり、来校されて担任にご相談いただけたらと思います。

記

学科・学年 《学科学年》

氏 名 《氏名》

60点未満の科目数 《欠点科目》 科目（《総科目》 科目中）

（注）成績不良通知の基準：試験科目の1/3を超えた学生

（出典：学生課）

資料6-1-①-5

電子機械工学科成績一覧表（平成24年度学年末試験）

個人情報等保護のための削除

（出典：学生課）

修得した必要科目の単位数または時間数

三級海技士(機関)第一種養成施設 弓削商船高等専門学校

必要履修科目	該当する科目	1年	2年	3年	4年	5年	航訓 実習	合計
1. 機関に関する科目								
その一								
一 出力装置	熱力学1			0.3				0.3
	計測工学1			0.1				0.1
	計測工学2				0.2			0.2
	制御工学1			0.1				0.1
	機関学概論	0.3						0.3
	内燃機関学1			0.3				0.3
	蒸気工学1			0.3				0.3
	実験実習1		0.2					0.2
	校内練習船実習				0.4	0.1		0.5
	熱力学2				0.5			0.5
	材料学2					0.2		0.2
	制御工学2				0.2			0.2
	内燃機関学2				2			2
	内燃機関学3					2		2
蒸気工学2				1			1	
蒸気工学3				1			1	
工学実験					0.6		0.6	
航海訓練所実習課程						2.2	2.2	
二 プロペラ装置	機関学概論	0.1						0.1
	推進論				1			1
	航海訓練所実習課程						0.1	0.1
計		0.4	0.2	1.1	6.9	2.3	2.3	13.2

必要履修科目	該当する科目	1年	2年	3年	4年	5年	航訓 実習	合計	
その二									
一 筒機	水力学			0.1				0.1	
	校内練習船実習				0.2			0.2	
	熱力学2				0.2			0.2	
	水力機械学				0.5			0.5	
	流熱工学				1			1	
	油圧工学					0.5		0.5	
	工学実験					0.2		0.2	
	航海訓練所実習課程						1	1	
	二 電気工学、 電子工学及び 電気設備	電気気学		0.2					0.2
		電気回路		0.2					0.2
		電気機器1		0.1					0.1
	電子工学1			2				2	
	電気機器2			1				1	
	電気機器3				1			1	
	電子工学2				1			1	
	工学実験				0.6			0.6	
	航海訓練所実習課程						0.3	0.3	
三 自動制御装置	計測工学1			0.1				0.1	
	計測工学2				0.2			0.2	
	制御工学1			0.3				0.3	
	制御工学2				1.8			1.8	
	工学実験				0.3			0.3	
	航海訓練所実習課程						0.2	0.2	
四 甲板機械	水力機械学				0.5			0.5	
	油圧工学					0.5		0.5	
	航海訓練所実習課程						0.1	0.1	
計		0	0.2	0.8	8.5	3	1.6	14.1	

必要履修科目	該当する科目	1年	2年	3年	4年	5年	航訓 実習	合計
その三								
一 燃料及び 潤滑油の特性	潤滑工学					1		1
	航海訓練所実習課程						0.1	0.1
二 熱力学	熱力学1			0.2				0.2
	熱力学2				1.3			1.3
	航海訓練所実習課程						0	0
三 力学及び 流体力学	材料力学1				0.2			0.2
	水力学				0.2			0.2
	船舶工学1		0.1					0.1
	船舶工学2			0.1				0.1
	材料力学2					1		1
	工学実験					0.3		0.3
	航海訓練所実習課程						0	0
四 材料工学	材料学1				0.8			0.8
	材料学2					0.8		0.8
	工学実験				0.2			0.2
	航海訓練所実習課程						0	0
五 造船工学	材料力学1			0.2				0.2
	航海学概論	0.1						0.1
	機関学概論	0.1						0.1
	船舶工学1		0.1					0.1
	船舶工学2			0.1				0.1
	工学実験				0.2			0.2
	航海訓練所実習課程						0	0
六 製図	設計製図				2			2
	航海訓練所実習課程						0	0
	計	0.2	0.2	1	6.8	0.8	0.1	9.1

2. 職務一般に関する科目	1年	2年	3年	4年	5年	計	合計
一 当番・保安 及び機関一般	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1		0.5
						4.5	4.5
二 船舶による 環境の汚染 防止			0.1		0.1		0.2
						0.4	0.4
三 損傷制御			0.1				0.1
				0.1	0.2		0.3
						0.2	0.2
四 船内作業の 安全				0.3			0.3
		0.2					0.2
	0.1	0.1	0.1				0.3
						0.2	0.2
五 海事法令 及び国際 条約			0.3				0.3
			0.3				0.3
六 乗組員の 管理、組織 及び訓練	0.1						0.1
		0.1	0.1	0.1	0.2		0.5
						1.6	1.6
計	0.3	0.8	0.8	0.7	0.6		7.0
総合計	0.9	1.4	3.7	22.9	6.7	11	46.6

免許講習	1年	2年	3年	4年	5年	計	合計
救命講習・機関救命講習							
講義(時間)			2.0	1.0			3時間
操艇・通信 実験実習2	1.0						7時間
実技(時間)	1.0	1.0	1.0				14時間
操艇・通信 校内練習船実習	4.0						7時間
校内練習船実習		3.0					7時間
消火講習							
講義(時間)			4.0				4時間
実技(時間)			3.0				3時間
上級機関英語講習							
英語				30.0			30時間
英語購読				60.0			60時間

(出典：学生課)

資料6-1-①-8

平成24年度 席上課程修了認定判定資料

個人情報等保護のための削除

(出典：学生課)

平成24年度第9回教員会議議事概要

日 時 平成24年9月19日(水) 16時22分～16時41分

場 所 第一会議室

出席者 46名(別紙のとおり)

議 事

(審議事項)

1 商船学科5年生の席上課程修了認定について

教務主事から、審議資料1-1に基づき、席上課程修了試験再試験及び特別試験の結果について説明があり、審議の結果、全員の合格が了承された。

続いて、教務主事から、審議資料1-2に基づき、修得単位数等の説明があり、審議の結果、商船学科5年生全員の席上課程修了が了承された。

(出典：平成24年度第9回教員会議議事録)

平成 23 年度

電子機械工学科
卒業研究発表会
— プログラム —発表日 : 平成 24 年 2 月
発表時間 : 8:30 - 16:10
発表会場 : アセンブリホー弓削商船高等専門学校
電子機械工学科

目次

- 8:30-8:40 集 合 (出欠点呼)
1. 8:40-9:00 鉛フリーはんだの変形挙動に関する研究
学生氏名: ██████████ (指導教員: 中山恭秀)
 2. 9:00-9:15 Mg 合金 AZ31 の角筋深絞り加工の温度と成形性
学生氏名: ██████████ (指導教員: 中山恭秀)
 3. 9:15-9:30 接触による粗さ面の変化に関する研究
学生氏名: ██████████ (指導教員: 藤本隆士)
 - 9:30-9:40 休 憩
 4. 9:40-10:05 摩擦実験装置の試作
学生氏名: ██████████ (指導教員: 藤本隆士)
 5. 10:05-10:25 低炭素快削鋼の仕上げ面の研究
学生氏名: ██████████ (指導教員: 大石健司)
 - 10:25-10:40 休 憩
 6. 10:40-11:00 仕上げ面品位に及ぼす切れ刃形状の影響
学生氏名: ██████████ (指導教員: 大石健司)
 7. 11:00-11:15 電気駆動船「弓削電丸」太陽エネルギーによる充電化
学生氏名: ██████████ (指導教員: 木村隆則)
 8. 11:15-11:30 洋上浮式型潮流発電の基本設計および上島町のマイクログリッドシステム構想
学生氏名: ██████████ (指導教員: 木村隆則)
 - 11:30-11:40 休 憩
 9. 11:40-11:55 熱重量測定装置の設計・製作
学生氏名: ██████████ (指導教員: 木村隆則)
 10. 11:55-12:15 機械設計における強度評価について
学生氏名: ██████████ (指導教員: 鶴 秀登)
 11. 12:15-12:30 Honda エコマイレージチャレンジレースへの挑戦
学生氏名: ██████████ (指導教員: 益崎真治)
 - 12:30-13:20 休 憩
 12. 13:20-13:45 防犯装置の制作について
学生氏名: ██████████ (指導教員: 勘久保広一)
 13. 13:45-14:05 Ni₃Al の拡散における原子安定構造に関する研究
学生氏名: ██████████ (指導教員: 政家利彦)
 - 14:05-14:20 休 憩
 14. 14:20-14:40 Android を用いた船舶航海情報送信システムの開発
学生氏名: ██████████ (指導教員: 長井弘志)
 15. 14:40-15:05 バイオメタル型 / エアバック型触覚提示タッチパネルディスプレイの開発
学生氏名: ██████████ (指導教員: 長井弘志)
 - 15:05-15:20 休 憩
 16. 15:20-15:45 テオ・ヤンセン機構を用いた歩行ロボットの製作
学生氏名: ██████████ (指導教員: 瀬清吾信)
 17. 15:45-16:05 バッテリー電源モータ用モータドライバの製作
学生氏名: ██████████ (指導教員: 瀬清吾信)
 - 16:05-16:10 講 評

※ 8:30 にアセンブリホールに集合

(出典 : 電子機械工学科)

学習達成度アンケート

本校では、皆さんが学習を通して、知識等がどの程度身についているかアンケート調査し、教育等の改善を行うために実施します。ご協力をお願いします。

学科： S M I 専攻：生産 海上

1. あなたは次の知識等がどの程度身についたと思いますか。4段階評価で教えてください。(4：良く身についた 3：身についた 2：あまり身につけていない 1：全く身につけていない)

1. 文系分野の基礎知識 () 2. 理数系分野の基礎知識 () 3. 専門知識 ()
4. 英語会話・読解力 () 5. 海洋に関する基礎知識 ()
6. しまなみ地域に関する知識 ()

2. あなたは次の事項がどの程度身についたと思いますか。4段階評価で教えてください。(4：良く身についた 3：身についた 2：あまり身につけていない 1：全く身につけていない)

1. 表現力 () 2. 理解力 () 3. リーダーシップ () 4. 国際感覚 ()
5. 創造力 () 6. 責任感 () 7. 協調性 () 8. 忍耐力 ()
9. 技能力 ()

3. あなたは就職や進学について、いつ頃から考えていましたか。該当の番号に○をつけて下さい。

1. 1年生 2. 2年生 3. 3年生 4. 4年生 5. 5年生

4. あなたが身についた知識等で、将来役に立つと思われるものに該当の番号に2つ○を付けてください。

1. 文系分野の基礎知識 2. 理数系分野の基礎知識 3. 専門知識 4. 英語会話・読解力
5. 専門的な技術・技能 6. 海洋に関する基礎知識 7. しまなみに地域に関する知識

5. その他、何かコメントがありましたら、自由に書いてください。

(出典：企画広報室)



ホーム » 学校案内 » 本校の教育方針・教育目標

【教育方針】

1. 自然科学および専門技術の基礎力を身につけ、高度化かつ多様化してゆく科学技術に柔軟に対応できる人材の育成
2. 身の回りの諸現象、特に海をとりまく自然・文化・歴史に好奇心を抱き、多角的に考えたり調べたりできる、独創力のある人材の育成
3. 日本および世界の文化や社会に関心をもち、国際的視野でものがみられ、しかも人間として、技術者として高い倫理観をもった人材の育成

【教育目標】

[学科等]

○教養教育

幅広い視野に立った総合的な判断能力、斬新な創造力を備えた実践的技術者育成のための基礎的能力の涵養と教養の育成

○商船学科

船員教育を基盤とした海事総合科学を身につけた技術者の育成

○電子機械工学科

ものづくりのできる実践的な技術者－計画・設計から生産・保守運用までできる技術者－の育成

○情報工学科

情報リテラシー、情報工学の知識に加え、問題分析、解決能力を備えたシステム技術者の育成

[専攻]

○海上輸送システム工学専攻

海上輸送システムや船舶機関システムに関する分野を中心とした専門的な技術を教育し、システムの運用、開発、商船学・工学的センスを

身につけた実践的な海事管理技術者の育成

○生産システム工学専攻

機械・情報系を中心とした複合的工業分野における専門的な知識と技術を教育し、瀬戸内海地域に貢献できるものづくりやシステム開発の

能力と国際感覚をもつ実践的専門技術者の育成

[【戻る | カテゴリの一覧に戻る】](#)

(出典：本校ウェブサイト)

4 月		平成 24 年度 研究日誌 (専攻科生用) 学生番号 105001 氏名										1 週間 (または該当日) の研究の まとめ今後の計画 (40 字以上)	担当教員 印 適合計時 間
月	火	水	木	金	土・日	研究内容	時間	研究内容	時間	研究内容	時間		
4/2		4/3		4/4		4/5		4/6		4/7, 8			印 hr
4/9 ゲル作製 論文作成	4 4	4/10 ゲル作製 論文作成	4 4	4/11 ゲル作製 論文作成	4 4	4/12 ゲル作製 論文作成	4 4	4/13 ゲル作製 論文作成	4 4	4/14, 15		新年度が始まった。学位の試験 と学会があるので、気を引き締 めて実験に取り組もうと思う。	印 40hr
4/16 ゲル作製 論文作成	4 4	4/17 ゲル作製 論文作成	4 4	4/18 ゲル作製 論文作成	4 4	4/19 ゲル作製 論文作成	4 4	4/20 ゲル作製 論文作成	4 4	4/21, 22		ゲルの作製と実験を行い、実験 データを細かく収集した。論文 に反映しておく。	印 40hr
4/23 P P 作製 論文作成	4 4	4/24 P P 作製 論文作成	4 4	4/25 発表練習 論文作成	4 4	4/26 発表練習 論文作成	4 4	4/27		4/28, 29		金曜日は中西国高専交流会があ った。満足のいく発表ができた と思う。	印 32hr
4/30													印 hr
										半期累計	112h	今月の研究時間合計	112hr

- 注意事項：1. 基本的には毎日、担当教員の指導のもとに行った研究について、その日のうちに研究日誌にその内容・時間を記入すること。
 2. 1 年前期・後期は 90 時間 (週あたり約 6 時間) 以上、2 年前期は 135 時間 (週あたり約 9 時間) 以上、2 年後期は 405 時間 (週あたり約 27 時間) 以上のこと。
 3. 上記研究時間に自宅で行った研究時間を含めることはできない。研究日誌においても自宅で行った分 (内容・時間) を書かないこと。
 4. 本研究日誌は、原則的に毎週担当教員に提出し捺印を受けること。
 * 研究日誌は、各月 1 枚に記入すること。
 * 最終日 (30, 31 日) が 6 週目になる月は、その月の研究日誌には最終週の分を記入せずに、
 例外的に最終週の分を翌月の研究日誌に記入し、その研究時間も翌月の研究時間とみなすこと。

5 月		平成 24 年度 研究日誌 (専攻科生用) 学生番号 105001 氏名										1 週間 (または該当日) の研究の まとめ今後の計画 (40 字以上)	担当教員 印 適合計時 間
月	火	水	木	金	土・日	研究内容	時間	研究内容	時間	研究内容	時間		
		5/1		5/2		5/3		5/4		5/5, 6			印 hr
5/7 ゲル作製 ゲル実験	4 4	5/8 ゲル作製 ゲル実験	4 4	5/9 ゲル作製 ゲル実験	4 4	5/10 ゲル作製 ゲル実験	4 4	5/11 ゲル作製 ゲル実験	4 4	5/12, 13		長期休暇明け、気分をリフレ ッシュして実験に取り組んだ。	印 40hr
5/14 ゲル実験 学位対策	4 4	5/15 予稿作製 学位対策	4 4	5/16 予稿作製 学位対策	4 4	5/17 予稿作製 学位対策	4 4	5/18 予稿作製 学位対策	4 4	5/19, 20		学位試験が近づいてきた。予想 される問題に対する対策を行 った。また、学会の予稿の作成 を始めた。	印 40hr
5/21 予稿作製 学位対策	4 4	5/22 予稿作製 学位対策	4 4	5/23 予稿作製 学位対策	4 4	5/24 予稿作製 学位対策	4 4	5/25 予稿作製 学位対策	4 4	5/26, 27		学位に向けて、さらに本格的に 勉強を始めた。また、学会発表 のため、予稿を提出した。	印 40hr
5/28 学位対策	8	5/29 学位対策	8	5/30 学位対策	8	5/31 学位対策	8					学位の試験対策を重点的に行っ た。	印 32hr
										半期累計	264h	今月の研究時間合計	152hr

- 注意事項：1. 基本的には毎日、担当教員の指導のもとに行った研究について、その日のうちに研究日誌にその内容・時間を記入すること。
 2. 1 年前期・後期は 90 時間 (週あたり約 6 時間) 以上、2 年前期は 135 時間 (週あたり約 9 時間) 以上、2 年後期は 405 時間 (週あたり約 27 時間) 以上のこと。
 3. 上記研究時間に自宅で行った研究時間を含めることはできない。研究日誌においても自宅で行った分 (内容・時間) を書かないこと。
 4. 本研究日誌は、原則的に毎週担当教員に提出し捺印を受けること。
 * 研究日誌は、各月 1 枚に記入すること。
 * 最終日 (30, 31 日) が 6 週目になる月は、その月の研究日誌には最終週の分を記入せずに、
 例外的に最終週の分を翌月の研究日誌に記入し、その研究時間も翌月の研究時間とみなすこと。

(出典：担当教員)

平成 24年度 後期 研究指導報告書

平成 24年 7月 20日

特別研究指導教員氏名 _____

1. 学生氏名 (学籍番号)

2. 学位申請時の専門領域
学士 (商船学)

3. 研究題目

メカノケミカル法を用いたナノコンポジット (NC) ゲルの作製と特性評価

4. 研究の概要

メカノケミカル法を用いてPNIPAゲルを基にしたNCゲルを作製し、通常のNCゲルとの特性の比較を行う。まず、さまざまな組成のNCゲルを作製し、どのゲルが一番伸縮性に富んでいるかを調べる。その後、そのゲルと同様の組成でメカノケミカル法によりNCゲルを作製し、伸縮性を調べ、両ゲルの比較を行い、検討する。それらの結果から従来の水溶性ゲルであるPNIPAゲルと同じような吸水性を持ち、かつそれにはない柔軟性をもつことが明らかとなった。これにより吸湿性緩衝材等に使用できる可能性が見いだされた。

5. 今期の研究実施時間 (研究ノート等を基に算出する。算出基準を明確にすること)

4月 112時間、5月 152時間、6月 168時間、7月 83時間

合計 515時間

6. 今期の研究の目標達成状況 (計画書に沿って具体的に。発表予稿等と活用する)

本人の研究としては、クレイの量を種々変えて、NCゲルの作製を試みた。良く伸びるゲルが完成した。さらにメカノケミカル法を用いたNCゲルの作製し、伸縮性の比較を行った。学会発表を行う。

7. 今期の学会発表等

1. 村上知弘、池田真吾、メカノケミカル法を用いたナノコンポジット (NC) ゲルの伸縮性、平成24年度中四国専攻科交流会 C-07, 2012.
2. 池田真吾、村上知弘、緩衝材に適したナノコンポジット (NC) ゲルの作製 日本包装学会第21回年次大会, P132-133, 2012.
3. 村上知弘、池田真吾、緩衝材に適したナノコンポジット (NC) ゲルの作製 弓削商船高等専門学校紀要 35号 投稿予定

8. 今期の研究評価 (計画書の評価方法に沿って具体的に記述する。発表予稿等の評価も含む)

学会発表や論文作成も一人で行えるようになり、専攻科生として十分できた。

合格

9. 備考

注: 学生ごとに記入すること

(出典: 担当教員)



平成24年度
海上輸送システム工学専攻特別研究中間発表会

予稿集



平成24年9月26日
弓削商船高等専門学校専攻科
海上輸送システム工学専攻

日時 平成24年9月28日

場所 マルチメディア教室

時刻 下記

13:30~13:40 挨拶 専攻科長

① 13:40~14:00 「プロペラ後流における一軸二枚舵に働く流体力に関する研究」

井上 涼介 115001 (指導教員: 湯田 紀男)

司会・タイムキーパー: 湯田

総評 専攻科長

(出典: 専攻科)

平成24年度 中国・四国地区高専専攻科生研究交流会発表題目一覧表

高専名：_____ 弓削商船高等専門学校

番号	所属 (学生は専攻名、 教員は学科名等を 明記して下さい)	学年	氏名	発表形式 「口頭」 または 「ポスター」 と明記して下さい	発表部門 「M:機械」 「E:電気・電子」 「I:情報・制御」 「B:土木・建築」 「C:物質・化学」 アルファベットで明記して下さい	発表題目	備考
1	生産システム工学	1		口頭	I:情報・制御	コンピュータ囲碁の盤面 評価の研究	
2	生産システム工学	1		口頭	M:機械	球状介在物を有する有限 体の応力集中	
3	生産システム工学	1		口頭	M:機械	Mg合金AZ31の温間角筒 深絞り加工に関する熱一 力学連成解析	
4	生産システム工学	1		口頭	M:機械	NEB法を用いた格子欠陥 近傍における水素原子拡 散素過程の活性化エネル ギーの検討	
5	生産システム工学	1		口頭	I:情報・制御	広島市内国道54号線に おける信号制御システム の開発	
6	生産システム工学	1		口頭	I:情報・制御	海底3次元計測艇の開発	
7	生産システム工学	1		口頭	I:情報・制御	メンタリングを導入した情 報処理技術者試験対策 のためのe-Learningシ ステムの開発～FAQ集の自 動生成～	
8	生産システム工学	1		口頭	I:情報・制御	高齢者地域におけるICT の利活用に関する研究	
9	生産システム工学	1		口頭	I:情報・制御	因子分解法に基づく高速 三次元復元システムの試 作	
10	海上輸送システム工学	2		口頭	C:物質・化学	メカノケミカル法によるナ ノコンジットゲル(NCゲ ル)の作製と力学特性	
11	海上輸送システム工学	2		口頭	M:機械	ラッピングの研磨量に及 ぼすラップ液の影響につ いて	
12	海上輸送システム工学	2		口頭	B:土木・建築	多層流速計による豊後水 道の急潮と底入り潮につ いて	
13	海上輸送システム工学	2		口頭	B:土木・建築	離島地域の高潮の安全 対策について	
14	海上輸送システム工学	2		口頭	B:土木・建築	瀬戸内海離島航路への 沖島通航モデルの応用	
15							

(出典：専攻科)

平成24年度 専攻科

海上輸送システム工学専攻 特別研究審査発表会

日時 平成24年7月20日

場所 マルチメディア教室

時刻 下記

13:25~13:30 挨拶 専攻科長

- ① 13:30~13:50 「メカノケミカル法によるナノコンポジットゲル (NC ゲル) の作製と力学特性」

池田 真吾 (指導教員:村上 知弘)

司会:商船学科長(高岡) タイムキーパー:井上

- ② 13:50~14:10 「ラッピングの研磨量に及ぼすラップ液の影響について」

河内 健 (指導教員:友田 進)

司会:商船学科長(高岡) タイムキーパー:井上

- ③ 14:10~14:30 「離島地域の高潮の安全対策について」

正岡 立巳 (指導教員:多田 光男)

司会:商船学科長(高岡) タイムキーパー:井上

- ④ 14:30~14:50 「瀬戸内海離島航路への沖島通船モデルの応用」

山中 智広 (指導教員:多田 光男)

司会:商船学科長(高岡) タイムキーパー:井上

- ⑤ 14:50~15:10 「豊後水道における急潮と底入り潮の観測」

前田 龍弥 (指導教員:二村 彰)

司会:商船学科長(高岡) タイムキーパー:井上

15:10~ 総評 専攻科長

(出典:専攻科)

資料6-1-①-18

海上輸送システム工学専攻 成績一覧表

個人情報等保護のための削除

(出典：専攻科委員会資料)

資料6-1-①-19

平成24年度第3回専攻科委員会議事概要

日時 平成24年7月31日（火）14時00分～14時45分
 場所 第二会議室
 出席者 5名（別紙のとおり）
 議題

（審議事項）

1 単位認定について（海上輸送システム工学専攻）

委員長から、単位認定要件について次のとおり説明があった。

- ・ 専門基礎科目の必修14単位
- ・ 専門科目の必修22単位
- ・ 専門科目の選択26単位以上
- ・ 合計62単位以上

続いて、審議資料1に基づき、各学生の修得単位数及び成績の確認が行われ、審議の結果、5名全員の単位修得が了承された。

なお、今回の単位認定については、8月8日（水）開催の教員会議に提議することとなった。

（出典：専攻科委員会議事録）

資料6-1-①-20

平成24年度第6回教員会議議事概要

日時 平成24年8月8日（水）10時30分～10時50分
 場所 第一会議室
 出席者 38名（別紙のとおり）
 議事

（審議事項）

1 平成25年度編入学生の可否判定について

2 単位認定について（海上輸送システム工学専攻）

専攻科長から、審議資料2に基づき、全員、修了要件である62単位以上を修得している旨の説明があり、併せて7月31日（火）開催の専攻科委員会において審議の結果、全員合格となった旨の報告があった。

続いて、校長から、成績及び修得単位について確認があり、全員の単位認定が了承された。

（出典：平成24年度第6回教員会議議事録）

各種資格試験の相談窓口等

資格試験名	受験相談・指導	手続き窓口
○漢字検定(*)	国語担当教員(G)	神谷先生・猪川先生(G)
○実用英語技能検定(*)	英語担当教員(G)	坂内先生(G)
○実用数学技能検定(*)	数学担当教員(G)	藤井清先生(G)
○TOEIC(*)	英語担当教員(G)	野口先生(G)
○海技士(航海系)	商船学科教員(S)	永本先生(Y)
○海技士(機関系)	商船学科教員(S)	村上(英)先生(S)
○小型船舶操縦士	多田先生(S)	多田先生(S)
○海上無線通信士	多田先生(S)	多田先生(S)
○日本語ワープロ検定(*)	益崎先生(M)	情報処理教育センター
○ホームページ作成検定(*)	益崎先生(M)	情報処理教育センター
○工業英語能力検定(*)	ガンバット先生(M)	ガンバット先生(M)
	葛目先生(I)	葛目先生(I)
○電気工事士	木村先生(M)	木村先生(M)
○電気主任技術者	木村先生(M)	木村先生(M)
○CAD検定(*)	中山先生(M)	中山先生(M)
	榎田先生(I)	榎田先生(I)
○パソコン検定(P検)(*)	田房先生(I)	情報処理教育センター
○情報処理技術者	情報工学科教員	情報処理教育センター
・ITパスポート		
・基本情報技術者		
○CG-ARTS検定(*)	塚本先生・田房先生(I)	田房先生(I)
・CGクリエイター		
・CGエンジニア		
・画像処理エンジニア		
・マルチメディア		
・WEBデザイナー		
○ボイラー技士	松永先生(Y)	松永先生(Y)
○危険物取扱者	松永先生(Y)	松永先生(Y)
○高圧ガス製造保安責任者(冷凍機械)	松永先生(Y)	松永先生(Y)
○毒物・劇物取扱主任者	伊藤武先生(G)	伊藤武先生(G)
○QCC検定	塚本先生(I)	塚本先生(I)

注) 手続き窓口が明記してある資格試験の合格者については、担当の先生の方から教務係に連絡をしてもらいますが、それ以外の資格試験については、合格者本人が教務係に連絡をしてください。

S: 商船学科 M: 電子機械工学科 I: 情報工学科 G: 総合教育科 Y: 練習船
*: 本校試験会場(ただし、少人数の場合、実施できない試験あり)

(出典: 学生課)

観点6-1-②： 各学年や卒業（修了）時等において学生が身に付ける学力や資質・能力について、学校としてその達成状況を評価した結果から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。

（観点に係る状況）

準学士課程では、進級に必要な単位が取得できなかった学生については、一定基準の下で特別進級となり（資料6-1-②-1）、次学年の前期に3回行われる追認試験で取り残した単位の取得をさせている（資料6-1-②-2）。この追認試験制度及び再試験制度により、留年者や退学者の減少に取り組んでおり、資料6-1-②-3、4に示すように全体として効果を上げている。また、留年学生に対しては、年度初めに、教務主事、学生主事等による面談を行い、勉強に対する取り組み方の指導を行っている。

実践的技術者育成のため、資格取得について奨励・支援を行っており、各学科において増減はあるものの、資格取得者が増加傾向にある（資料6-1-②-5）。特に、情報工学科においては、資格試験取得による単位認定が行われており（資料6-1-②-6）、IT関係の資格取得者が増えている。

卒業研究に対しては、年度初めに指導教員から提出される卒業研究指導計画書（資料6-1-②-7）に従って、その研究テーマに興味を持った学生に指導が行われている。卒業研究は各研究室でのゼミを経て、ある程度まとまった段階で中間発表（資料6-1-②-8）が行われる。卒業研究認定は、最終段階となる卒業研究発表会（資料6-1-②-9）終了後の卒業論文（代表的な卒業論文を訪問調査時に提示）の提出により認定されており、準学士課程における各専門領域での教育の成果である。

情報工学科では「プログラミングコンテスト」で毎年優秀な成績を残しており（資料6-1-②-10）、「日本ものづくり大賞（内閣総理大臣賞）」も受賞している（資料6-1-②-11）。また、経済産業省主催の「ケータイ甲子園」においてコミュニケーション部門で最高位のグランプリを受賞（資料6-1-②-12）、電子機械工学科では「Hondaエコマイレッジチャレンジ」や「クルーレス・ソーラーボート大会」等で受賞（資料6-1-②-13）するなど、本校の行っている創造性教育の発展が随所に見られる。

専攻科課程での単位認定は、試験、レポート及びプレゼンテーション等により成績が付けられており、単位取得率は準学士課程の学生よりも非常に良い結果となっている（資料6-1-②-14）。

資料6-1-②-15に示すように、専攻科では、入学者に対する修了者の割合が非常に高い。専攻科設置以降、今年までに留年者は出ておらず、非常に細かな教育の成果である。また、専攻科修了後に大学院への進学者が毎年出ている（資料6-1-②-16）。

専攻科では、主に学会等に提出した論文に対する受賞が多い（資料6-1-②-17、18）。特別研究の内容をまとめ、提出しているものについての受賞であるため、専攻科レベルの教育の成果といえる。

（分析結果とその根拠理由）

準学士課程及び専攻科課程で学生が身に付ける学力や資質・能力については、単位取得状況、資格取得状況、各種コンペティションの受賞及び学会関係の受賞状況から判断しても十分に教育

効果が上がっているといえる。

資料6-1-②-1

○弓削商船高等専門学校学業成績の評価並びに
進級・特別進級及び卒業の認定に関する規則

制 定 昭和63年4月8日

最終改正 平成23年1月20日

(進級)

第12条 進級の認定は、次の各号の要件を満たした学生について行う。

- (1) 1年間の出席日数が、出席すべき日数(授業(特別活動、講演等を含む)、学校行事、特別日課等の合計とし、出席停止(学則第25条)及び忌引(学生準則第15条)は含まない。第14条第4項において同じ。)の3分の2以上であること。この場合において、欠席日数の換算は第2条第3項を適用する。
- (2) 当該学年において、別表3の所定の進級単位数を修得していること。
- (3) 前学年の未修得科目がないこと。
- (4) 特別活動を履修していること。

(特別進級)

第13条 前条第2号の規定にかかわらず、次の各号の要件を満たす学生については、特に進級の認定を行うことができる。

- (1) その学年で必要な全科目を履修していること。
 - (2) 特別活動を履修していること。
 - (3) 別表4に示す各学年の科目を修得していること。
 - (4) 1年間の出席日数が、出席すべき日数の3分の2以上であること。この場合において欠席日数の換算は、第2条第3項を適用する。
 - (5) 当該学年の未修得科目数及び未修得単位数が別表5に示す数以下であること。
 - (6) 前学年の未修得科目がないこと。
- 2 前項の進級を希望する学生は、所定の特別進級願(第5号書式)を校長に提出し、許可を受けなければならない。

(追認試験)

第14条 前条に規定する進級(以下「特別進級」という。)をした学生は、追認試験を受けることができる。

- 2 追認試験を受けようとする学生は、所定の追認試験受験願(第6号書式)を追認試験実施日の前日までに校長に提出し、許可を受けなければならない。
- 3 追認試験は、夏季休業前に3回実施する。
- 4 追認試験の実施日等については、校長が指定する。
- 5 追認試験に対する再試験・特別試験は行わない。

(出典：学生課)

資料6-1-②-2

特別進級学生数

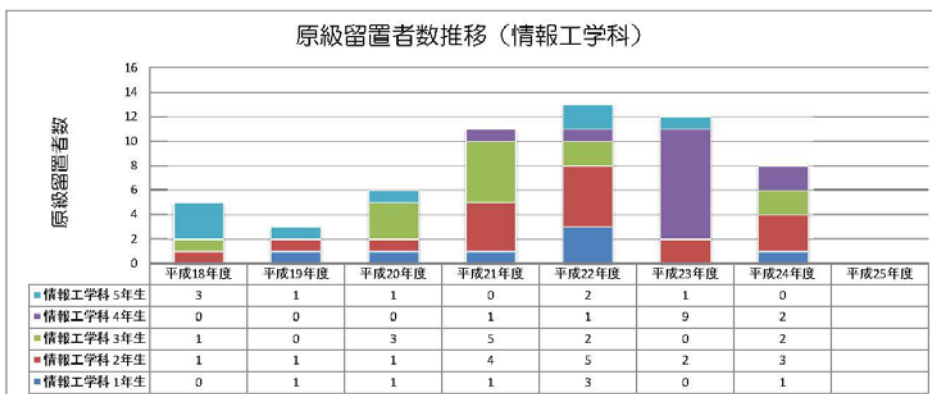
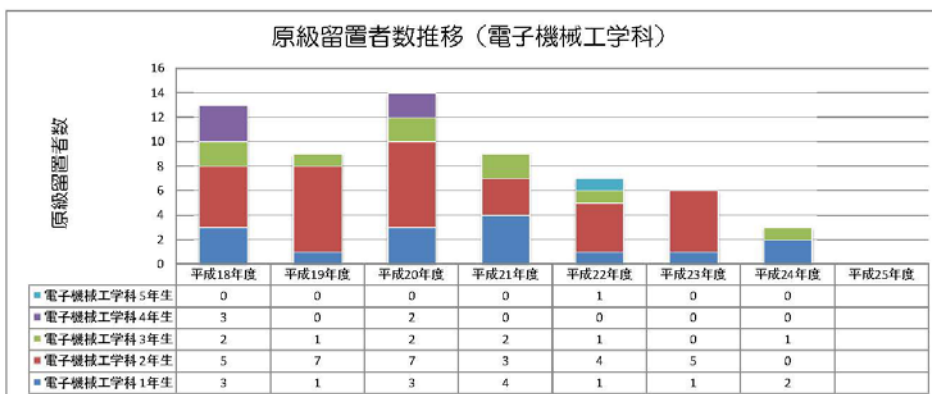
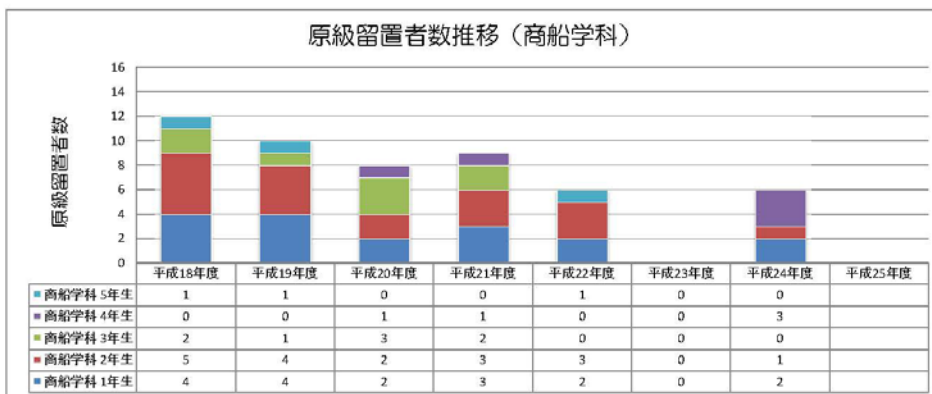
(単位:人)

学年	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
1年	18	13	10	15	9
2年	16	12	19	25	18
3年	16	14	26	17	15
4年	29	27	21	42	24
5年	0	0	0	1	0
合計	79	66	76	100	66

(出典:学生課)

成業率推移 原級留置者数推移

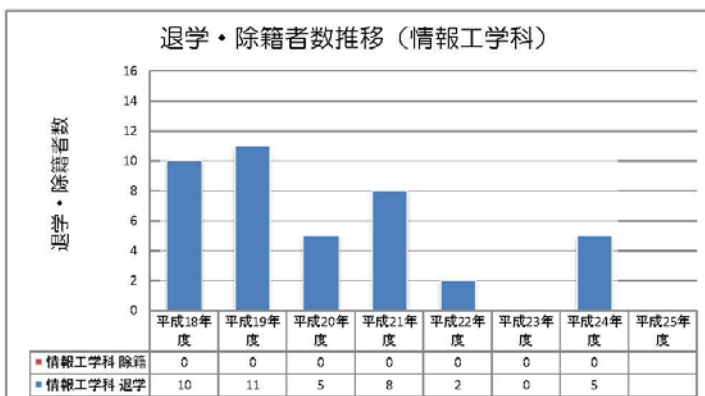
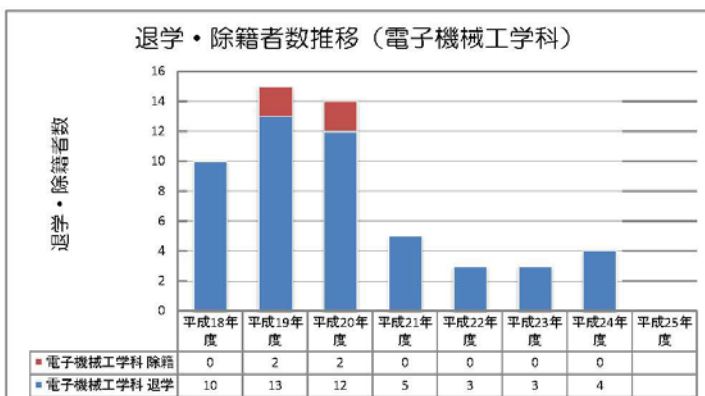
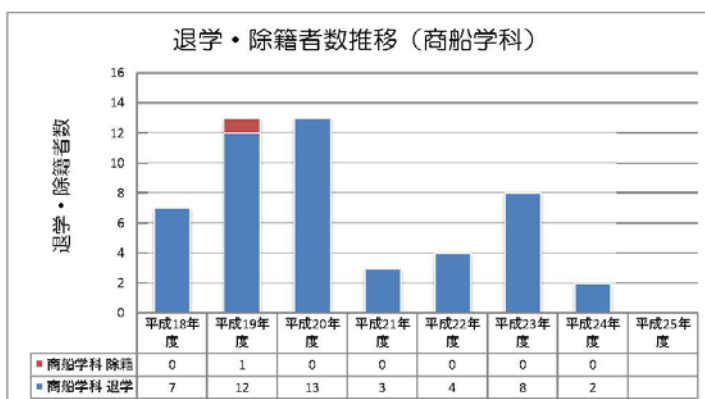
	商船学科					電子機械工学科					情報工学科				
	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生
平成18年度	4	5	2	0	1	3	5	2	3	0	0	1	1	0	3
平成19年度	4	4	1	0	1	1	7	1	0	0	1	1	0	0	1
平成20年度	2	2	3	1	0	3	7	2	2	0	1	1	3	0	1
平成21年度	3	3	2	1	0	4	3	2	0	0	1	4	5	1	0
平成22年度	2	3	0	0	1	1	4	1	0	1	3	5	2	1	2
平成23年度	0	0	0	0	0	1	5	0	0	0	0	2	0	9	1
平成24年度	2	1	0	3	0	2	0	1	0	0	1	3	2	2	0
平成25年度															



(出典：学生課)

卒業率推移 退学・除籍者数推移

	商船学科		電子機械工学科		情報工学科	
	退学	除籍	退学	除籍	退学	除籍
平成18年度	7	0	10	0	10	0
平成19年度	12	1	13	2	11	0
平成20年度	13	0	12	2	5	0
平成21年度	3	0	5	0	8	0
平成22年度	4	0	3	0	2	0
平成23年度	8	0	3	0	0	0
平成24年度	2	0	4	0	5	0
平成25年度						



(出典：学生課)

平成21年度～24年度 資格取得者

資格試験名		21	22	23	24	
海技士(航海)	1級				2	
	2級	3	3	4	3	
海技士(機関)	1級	1	3		1	
	2級	4	1	7	2	
海上無線通信士	第3級	2			2	
小型船舶操縦士	2級				7	
ボイラー技士	1級		1			
	2級			2		
潜水士					1	
電気工事士	第二種	4	8		11	
危険物取扱者	乙種第1類	2				
	乙種第2類	1				
	乙種第4類	13	5	12	3	
高圧ガス製造保安責任者	乙種機械	1				
CAD利用技術者試験	2級		5			
品質管理(QC)検定	2級				1	
	3級				16	
	4級				16	
CGクリエイター検定	3級	2				
	デジタル映像部門	エキスパート		2		
		ベーシック		13	5	
	Webデザイン部門	ベーシック		3	2	
		エキスパート				1
Webデザイナー検定	ベーシック				15	
	ベーシック				6	
CGエンジニア検定	CG部門	エキスパート		1		
		3級	1			
	画像処理部門	ベーシック		5	6	
		ベーシック		14	9	
		3級	7			
	エキスパート				1	
	ベーシック				11	
画像処理エンジニア検定	ベーシック				13	
マルチメディア検定	ベーシック		1		4	
情報処理技術者試験	基本情報技術者	4		5	4	
	ITパスポート	4		4	0	
初級システムアドミニストレーター		1				
ホームページ作成検定	3級	1				
パソコン検定(P検)	準2級	4		1	4	
	3級			31	25	
	4級			31	29	
日本語ワープロ検定	1級				1	
	3級			1		
マルチメディア検定	ベーシック			3		
実用英語技能検定	2級			1		
工業英語能力検定	3級	3	1		1	
	4級	9	14	14	4	
漢字検定	2級	1	1			
	準2級	3	4			
	3級	3	2			
	4級	1				
合計		75	87	138	184	

(出典：学生課)

情報工学科特別講義単位認定基準

	試験日	1年生	2年生	3年生	4年および5年生	
		1単位	1単位	1単位	1単位	2単位
漢字検定	数回/年	3級	2級			
数学検定	数回/年	3級	準2級	2級	準1級	1級
英語検定	1.6.10月			準2級	2級	準1級
TOEIC	1.3.5.6.7.9.10.11月				400点	450点
工業英語検定	1.5.6.7.11月			4級	3級	2級
CAD利用技術者検定	7.12月				2級	1級
CGクリエイター CGエンジニア Webデザイナー 画像処理エンジニア マルチメディア	7.11月			ベーシック	エキスパート	
品質管理検定	3月.9月			4級	3級	2級
パソコン検定		4級	3級	準2級	2級	
MOUSE検定						
ワープロ検定						
デジタル技術検定	6.11月第4日曜		4級	3級	2級(情報) 2級(制御)	
情報処理技術者試験	4.10月				ITパスポート	基本情報技術者
特殊無線技士	2.6.10月		2陸特技士	1陸特技士		
無線技術士	1.7月					2陸無線技術士
工事担任者				DD3種	DD2種	DD1種
ネットワーク接続技	5.11月			AI3種	AI2種	AI1種
電気主任技術者	9月(1次)					第3種
電気工事士	6月					第2種
日本語検定				2級	1級	

専門関連科目
科学技術英語
CAD
画像処理, コンピュータグラフィックス
マルチメディア工学
システム工学, 信頼性工学, OR, 数理統計学
全般
全般
全般
電磁気学, 通信システム
電磁気学, 通信システム
ネットワーク理論, 情報通信伝達工学
電気電子工学
電気電子工学
日本語(留学生用)

※各学年において表の得点あるいは級以上を単位として認定する。
 ※取得資格の単位認定は一回のみ利用できる。
 ※入学(編入)時に有した資格は単位認定しない。
 ※4年, 5年の取得資格は5年修了時に最大2単位まで認定する。

受験に伴う公欠の認定処理=>教務委員会

(出典：学生課)

平成24年度 卒業研究指導計画書

平成24年 4月1日

卒業研究指導教員氏名 友田進

1. 学生氏名 (学籍番号)

2. 研究題目

ダイヤモンド作成に関する研究

3. 研究の概要

工業的に利用価値の高い人工ダイヤモンドは、高温高压法、CVDに代表される低圧法などの様々な製造方法が提案され、既に高品質なダイヤモンドが製品化されている。この中で低圧法の一部には、高価で精密な機器を使用することなくダイヤモンドの作成が可能といわれている。具体的には、アセチレン炎を用いてタングステンやモリブデン基板などにダイヤモンドを育成する方法である。本研究ではアセチレン炎によるモリブデン基板上へのダイヤモンド育成を試みる。

4. 研究目標

21年度の問題点を改善した実験装置を作成することで、ダイヤモンド作成に再びチャレンジする。

5. 指導方針

実験が中心になるが、それぞれの実験についての意味を理解し、機器の使用を熟知させて研究を指導していく。

6. 研究実施方法

過去の卒業論文、文献等を読み研究目的、研究の意義を理解した上で、実験装置を試作し、実験結果をまとめて論文に仕上げしていく。

7. 主たる研究場所

電子機械工学科棟2階 材料学実験室 実習工場

8. 月間計画 (学会発表予定を含む)

4月：論文等の文献調査

5月：実験法案作成と装置の作成

6月：装置の作成

7月：実験及び論文作成

8月：論文修正、発表原稿作成

9月：卒業論文提出、卒業研究発表

9. 備考

注：卒業研究題目ごとに記入すること。

(出典：担当教員)

資料6-1-②-8

Subject: [Yuge_staff:2450] 電子機械工学科卒研中間発表会のお知らせ
From: "T. Fujimoto" <fujimoto@mech.yuge.ac.jp>
Date: 2012/12/19 12:26
To: 教職員全員 <Yuge_staff@yuge.ac.jp>

各位

本日、電子機械工学科5年生の卒業研究 中間発表会を開催いたします。
興味がございます方はご参集下さい。

日時：12月19日（水）13:20-17:00
場所：アセンブリホール

（出典：電子機械工学科）

平成24年度 商船学科卒業研究発表会 講演プログラム

ページ	発表時間	発表テーマ	卒研学生	指導教員	進行	時計
	08:50-09:00	開会の言葉(商船学科長)				
1	09:00-09:15	二級海技試験(航海)の取り組みについて		二村	高岡	新田
2	09:15-09:30	燃料のエマルジョン化が燃焼、排気特性に与える影響		秋葉	高岡	新田
3	09:30-09:45	気相反応によるダイヤモンドの作成		友田	中	武田
4	09:45-10:00	海のカーナビゲーションの開発		高岡	中	武田
	10:00-10:15	休憩				
5	10:15-10:30	帆船の研究 -V- (帆船の歴史と現代帆船への進化)		高岡	湯田	大元
6	10:30-10:45	英語力向上のためにTOEICテストを利用する方法の考察		児玉	湯田	大元
7	10:45-11:00	語学力向上のための学習方法の考察		児玉	山崎	東口
8	11:00-11:15	水溶性ゲルを利用した防汚塗料の開発		村上知	山崎	東口
	11:15-11:30	休憩				
9	11:30-11:45	緩衝材に適したナノコンポジットゲル(NCゲル)の作製		村上知	友田	山下
10	11:45-12:00	弓削商船高専・商船学科の5年間の進路状況の推移		多田	友田	山下
11	12:00-12:15	「海運経済研究」にみる海運経済分野における学術研究の動向		野ノ山	児玉	川島
	12:15-13:30	昼食・休憩				
12	13:30-13:45	マグネシウム合金板の温間角筋深絞りにおける温度と速度の影響		中	村上知	濱田
13	13:45-14:00	災害時における発電機の一考察		湯田	村上知	濱田
14	14:00-14:15	商船学科PRグッズの開発 - ボンボン船製作 -		湯田	多田	佐々木
15	14:15-14:30	プロペラ後流中における一軸二枚舵に働く流体力		湯田	多田	佐々木
	14:30-14:45	休憩				
16	14:45-15:00	マルチ・フェロイック・デバイスの開発		柳澤	向瀬	水本
17	15:00-15:15	練習船機関室のインタラクティブな模型教材の製作と応用		向瀬、山崎	野々山	水本
18	15:15-15:30	実写画像による機関室シミュレーションシステムの製作と応用		向瀬、山崎	秋葉	吉田
	15:30-15:45	総評(商船学科長)				

発表時間 15分
 内訳 発表 12分、質疑応答 3分
 打令 10分:1鈴、12分:2鈴、15分:3鈴

(出典：商船学科)

トピックス：「第23回全国高専プログラミングコンテスト」課題部門での文部科学大臣賞(最優秀賞)受賞の報告

投稿者: webmaster 投稿日時: 2012-10-18 13:33:26 (359 ヒット)

10月13日(土)・14日(日)に有明工業高等専門学校(福岡県大牟田市)において、全国高等専門学校第23回プログラミングコンテストが開催され、3部門のうち課題部門において、弓削商船高専が文部科学大臣賞(最優秀賞)を受賞したことの報告を校長先生に行った。課題部門では、「ICTでサポートする明るい少子高齢化社会をテーマにした作品」の課題に対して、本校は、「healTeeth-歯みがきで輝く未来-」の作品で参加し、文部科学大臣賞(最優秀賞)を受賞した。また、自由部門では、「Femto-ストレスフリーのファイル管理術-」の作品で参加し、敢闘賞を受賞した。弓削商船高専は、プログラミングコンテストで毎年好成績を取っており、文部科学大臣賞(最優秀賞)の受賞回数は9回目である。

(参加学生)

【文部科学大臣賞受賞】

課題部門 タイトル「healTeeth-歯みがきで輝く未来-」

学 生 岩本 華代子(情報工学科5年)
奥田 紗千(情報工学科5年)
山形 真名美(情報工学科5年)

指導教員 長尾 和彦(情報工学科教授)

【敢闘賞】

自由部門 タイトル「Femto-ストレスフリーのファイル管理術-」

学 生 桑原 裕也(生産システム工学専攻専攻科1年)
宇崎 裕太(情報工学科2年)
瀬尾 敦生(情報工学科2年)
肥田 琢弥(情報工学科2年)
山本 愛奈(情報工学科2年)

競技部門 タイトル「DICE-N -認識率の上がらないただ一つのシステム-」

学 生 中本 真司(情報工学科5年)
青井 佑太(情報工学科1年)
吾藤 秀亮(情報工学科1年)



(出典：本校ウェブサイト)

トピックス：本校学生「第3回ものづくり日本大賞(内閣総理大臣賞)」を受賞

投稿者: webmaster 投稿日時: 2009-7-13 10:14:04 (961 ヒット)

本校学生が、「第3回ものづくり日本大賞(内閣総理大臣賞)」を受賞しました。

「第3回ものづくり日本大賞(内閣総理大臣賞)【文部科学省関係】」

(案件名)

平成19年度 全国高等専門学校
第18回プログラミングコンテスト(課題部門) 文部科学大臣賞

(受賞者)

中本 裕美 丸山 奈希 矢野 ありす 小柳 亜由美 長尾 詩織



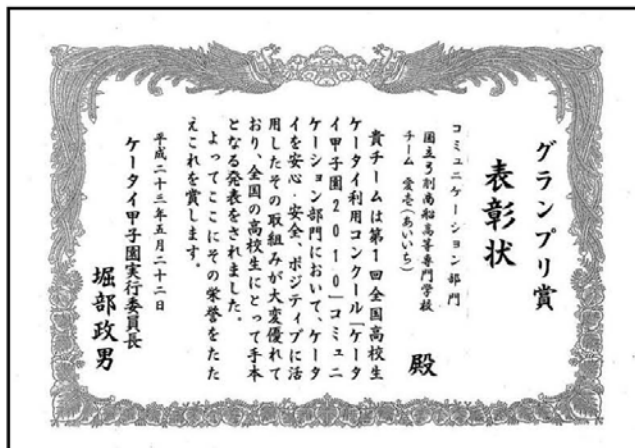
【第3回 ものづくり日本大賞 内閣総理大臣賞 受賞者の発表について】(

(出典：本校ウェブサイト)

「第1回ケータイ甲子園全国大会」で弓削商船高等専門学校が、グランプリを受賞
＝弓削商船高等専門学校＝

弓削商船高専のチーム(愛称: あいいち)は、5月22日(土)に大分市で開催された携帯電話の活用アイデアを競い合う「第1回ケータイ甲子園全国大会」のコミュニケーション部門で本選出場6校の中から最高位のグランプリ賞を受賞した。

受賞した弓削商船高専のチームは、情報工学科2年の福羅亜利沙学生、林真史学生、寺岡佑太学生、島田朝妃学生の4人。入学後からクラス全員でSNS(会員交流サイト)やメーリングリスト(ML)を使って悩み相談や情報交換を続けており、「SNSとメーリングリストで作る島っ子コミュニケーション」と題材して普段の取り組みを発表した。



(出典：本校ウェブサイト)

トピックス：弓削商船高専チームがホンダエコマイルレッジレースで特別賞を受賞

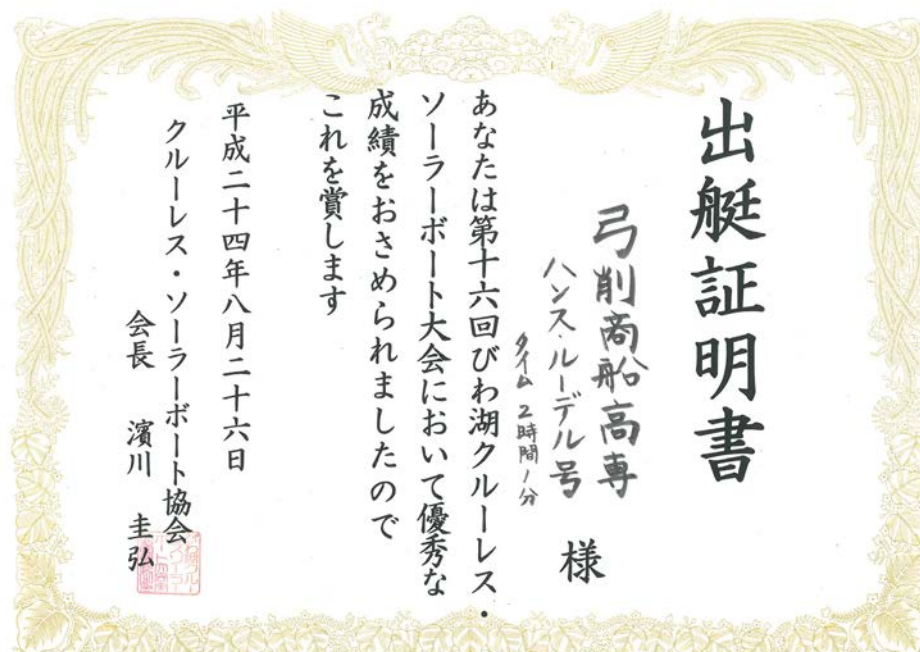
投稿者：webmaster 投稿日時：2011-8-22 16:12:04 (830 ヒット)

7月24日(日)HSR九州で開催されたホンダのエコマイルレッジレースで弓削商船高専のチームM&Sがエコマイルレッジ賞(特別賞)を受賞した。弓削商船高専は、いくつかある部門の中で50ccのバイクを一部のみ改造できる市販車部門に1台出場した。

大会ではハイテク車ばかりの中でチームリーダーの益崎教諭が地元バイク屋さんから譲り受けたバイクと自前の工具や部品で改造した製作費0円のバイクが審判員の方の目を引き、賞をいただいたようである。

さらに弓削商船チームのエコ製作費だけでなく、制作に携わった学生はドライバーの電子機械5年生の桜井君一人のみということ。そして当日必要なスタッフは開催地の熊本へ夏休みで帰っている同校の学生とOB、さらに応援に駆け付けてくれた保護者であった。最低限必要な交通費のみで大会に参加していることである。レースの成績はさておき大会委員長の講評では“まさに主催者のエコという趣旨ぴったり”ということであった。

閉会式の最後の最後に戴いた賞で国際レースで使われる優勝者の表彰台に立った教諭と学生の顔は満面の笑みを浮かべ、それまでの苦勞が吹きとんだようであった。



(出典：本校ウェブサイト、電子機械工学科)

資料6-1-②-14

海上輸送システム工学専攻 成績一覧表

個人情報等保護のための削除

(出典：専攻科委員会資料)

資料 6 - 1 - ② - 15

【退学】専攻科

	1年生		2年生		計
	海上	生産	海上	生産	
平成20年度	1	0	0	0	1
平成22年度	0	0	1	1	2
平成23年度	0	1	0	0	1

【除籍】専攻科

	1年生		2年生		計
	海上	生産	海上	生産	
平成17年度	1	0	0	0	1

(出典：学生課)

資料 6 - 1 - ② - 16

卒業生の進路状況

Situation of Course of Graduates

卒業年度 Graduates	平成 23 年度 2011				平成 22 年度 2010				平成 21 年度 2009			
	就職者 Employment	進学者 University	その他 Others	計 Total	就職者 Employment	進学者 University	その他 Others	計 Total	就職者 Employment	進学者 University	その他 Others	計 Total
商 船 学 科 Maritime Technology Department	18	4	1	23	28	12	0	40	27	8	1	36
電子機械工学科 Electronic Mechanical Engineering Department	18	14	0	32	20	4	2	26	25	12	0	37
情報工学科 Information Science and Technology Department	26	8	0	34	28	8	1	37	25	9	0	34
本科 計 Total	62	26	1	89	76	24	3	103	77	29	1	107
海上輸送システム工学専攻 Advanced Marine Transportation Systems Engineering Course	3	0	0	3	3	0	0	3	3	0	0	3
生産システム工学専攻 Advanced Production Systems Engineering Course	6	2	0	8	6	2	0	8	10	3	0	13
専攻科 計 Total	9	2	0	11	9	2	0	11	13	3	0	16

(出典：2012 学校要覧 P. 25)

資料6-1-②-17

軽金属希望の星賞 受賞者表彰

著作権に関係するために削除

(出典：軽金属学会HP)

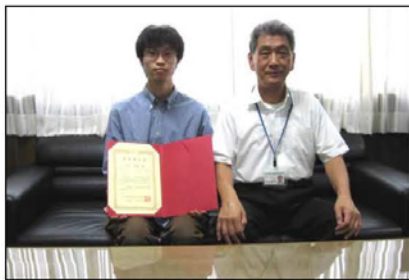
専攻科だより 第18号

平成 21 年 11 月

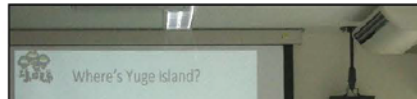
専攻科生の研究活動

■専攻科生が軽金属学会「優秀講演賞」受賞

平成 21 年 7 月 4 日（土）に第 1 回軽金属学会中国四国支部講演大会が愛媛大学で開催され、全 24 件のうち、弓削商船高専からは 2 件の発表が行われた。本校専攻科生産システム工学専攻 1 年大出明慶君が、「非比例変形を受けた AZ31 合金板の成形限界予測」について講演し、社団法人軽金属学会中国四国支部より、講演内容等が極めて優秀で軽金属に関する学術分野の進歩に寄与するところ多大であるとの理由で優秀講演賞を受賞した。



力向上のための English 集中レッスン」と題して試行的に実施して以来、毎年春季または夏季の長期休暇中に実施してきました。



専攻科だより 第26号

平成 24 年 6 月

専攻科行事の報告

■生産システム工学専攻入学式

4 月 10 日に举行され、8 期生 11 名（機械系 7 名、情報系 4 名）が入学しました。より高度で実践的な知識や技術の修得を目指すと共に、研究活動にも取り組みます。



生産システム工学専攻新生（8 期生）

■中四国地区専攻科生研究交流会

4 月 27・28 日に香川県で開催され、専攻科 2 年生 14 名が日頃の研究成果を発表しました。参加した学生の感想

本交流会への参加は他高専の専攻科生と交流を深めるとともに、自分自身の研究を見直す良いきっかけになりました。他高専の方々から頂いた貴重なご意見を今後の研究に是非生かしたいと思います。（生産 2 年 澤村幸輝）

新カリキュラムの紹介

7 年前に専攻科が設置されて以来、初めてカリキュラムの改訂を行い、以下の 3 科目を新設しました。

■インターンシップ

国内外にある企業・事業所での実務や、大学の研究室での研修体験を通して、自分の職業適性や将来の目標をより明確にすることを目的にしています。

■教育技術演習

本科低学年の補習、学生実験、公開講座などのアシスタントとして指導する経験を積むことにより、自身の総合的な学習経験を活かした教育技術、コミュニケーション能力、ならびに企画を円滑に実行する計画性の向上を図ります。

■生産システム工学概論

機械系出身者が情報系科目を履修する、または情報系出身者が機械系科目を履修するにあたり問題となる専門的予備知識の不足を補う目的で開設されています。したがって、異なる分野の学習がスムーズに行えるよう柱となる理論や技術の概要を習得することが目標です。

専攻科生の受賞報告

■学会発表で優秀発表賞を受賞

3 月 7 日、広島大学（東広島市）で開催された第 42 回学生会卒業研究発表講演会（日本機械学会中国四国学生会）において、専攻科生産システム工学専攻（当時）の矢口竜也君が優秀発表賞を受賞しました。発表題目は「熱量測定装置の製作と木質バイオマス炭化物の評価実験」でした。

(出典：専攻科だより第 18, 26 号)

観点6-1-③： 教育の目的において意図している養成しようとする人材像等について、就職や進学といった卒業(修了)後の進路の状況等の実績や成果から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。

(観点に係る状況)

[準学士課程]

各学科とも就職率は、希望者に対してほぼ100%に達している(資料6-1-③-1)。商船学科においては、海事関係、電子機械工学科では機械メーカー、情報工学科ではIT関連の職種が多い(資料6-1-③-2)。また、進学率は資料6-1-③-3に示すように高いものとなっており、本校で学んだ専門分野に関係の深い商船系及び工学系の大学または専攻科に多く進学している(資料6-1-③-4)。

[専攻科課程]

専攻科の求人・就職状況を資料6-1-③-5に示す。就職はほぼ100%であり、更に大学院へ進学する学生も毎年出ている(資料6-1-③-3)。海上輸送システム工学専攻の修了者は船会社の船舶管理関係が多く、生産システム工学専攻の修了者は機械、IT関係の会社に多く就職していることがわかる。

(分析結果とその根拠理由)

準学士課程及び専攻科課程は、進学率と就職率の両方ともほぼ100%に達している。就職先の状況を見ても各学科、各専攻で学んだ専門分野に適合した職種に就いており、進学者についてもそれぞれの専門性が活かされる学問分野の大学及び大学院に進学していることから、養成しようとしている人材像に適合した教育の成果が上がっている。

資料6-1-③-1

平成22年度求人・就職状況 Job-order and Employment Situation in 2010								
区分	学科等	Department	商船学科	電子機械工学科	情報工学科	専攻科	専攻科	備考
Division			Maritime Technology Department	Electronic Mechanical Engineering Department	Information Science and Technology Department	Advanced Marine Transportation Systems Engineering Course	Advanced Production Systems Engineering Course	Note
卒業	者数	Graduate	40(2)	26(2)	37(15)	3(0)	8(2)	
就職希望者	数	Applicants	28(2)	20(2)	29(15)	3(0)	6(1)	
就職者	数	Employment	28(2)	20(2)	29(15)	3(0)	6(1)	
求人	数	Job-orders	452	331	288	242	369	
海上 Marine	就業先別 Employment	求人	167	0	0	80	0	
		外航	10(0)	0	0	2(0)	0	日本郵船、川崎汽船、新日本石油タンカー、玉井汽船、大洋日本汽船、ほか
		内航	11(0)	0	0	1(0)	0	東洋汽船、協同汽船、青野海運、第一船、京葉タンカー、藤見サンマリ、ほか
		カーフェリー	2(1)	0	0	0	0	キャプテンライン、オーシャントランス、ほか
		官庁	0	0	0	0	0	
		水産	0	0	0	0	0	
		計	23(1)	0(0)	0(0)	3(0)	0(0)	
陸上 Land	就業先別 Employment	求人	285	331	288	162	369	
		はん用・生産用・業務用機械器具製造	0	11(1)	1(1)	0	2	パワ日立工業、関シダ、関ニチソウテック、三興コントロール、ほか
		電気・情報通信機械器具製造	0	1	12(5)	0	2(1)	京セラ、リコー、ジョンソンコントロールズ、ダイキン工業、ほか
		輸送用機械器具製造	4(1)	4	2(1)	0	1	マツダ、関アイ・エイチ・アイマリンユナイテッド工場、貴崎造船
		その他製造	0	2(1)	5(2)	0	1	NOK、大和製鋼、朝船研究
		情報通信	0	1	5(4)	0	0	富士通、日産電子サービス、関SECSOFT、関NTTネオメイト、ほか
		運輸・郵便	0	0	1(1)	0	0	東海旅客鉄道、ほか
		その他	1	1	3(1)	0	0	関半導体エネルギー研究所、ポートエンタープライズ、白盾隊、ほか
計	5(1)	20(2)	29(15)	0(0)	6(1)			
就職希望者に対する求人倍率			16.14	16.55	9.93	80.67	61.5	
就職希望者に対する就職率			100	100	100	100	100	

()内は、内数で女子を示す。

(出典：2011 学校要覧 P. 26)

平成23年度求人・就職状況 Job-order and Employment Situation in 2011								
区分	学科等	Department	商船学科	電子機械工学科	情報工学科	専攻科	専攻科	備考
Division			Maritime Technology Department	Electronic Mechanical Engineering Department	Information Science and Technology Department	Advanced Marine Transportation Systems Engineering Course	Advanced Production Systems Engineering Course	Note
卒業	者数	Graduate	23(0)	32(1)	34(17)	3(0)	8(2)	
就職希望者	数	Applicants	18(0)	18(0)	26(16)	3(0)	6(2)	
就職者	数	Employment	18(0)	18(0)	26(16)	3(0)	6(2)	
求人	数	Job-orders	239	407	322	105	567	
海上 Marine	就業先別 Employment	求人	132	0	0	35	0	
		外航	6(0)	0	0	2(0)	0	川崎汽船、山内汽船、戸田汽船、ワールドマリ、美海加海運、福岡和ライン、ほか
		内航	5(0)	0	0	0	0	神原ロジスティック、田中海運、日本マリ、藤見船務、日本ガスライン、ほか
		カーフェリー	2(0)	0	0	0	0	宇和島運輸、九州船舶
		官庁	0	0	0	0	0	
		水産	0	0	0	0	0	
		計	13(0)	0(0)	0(0)	2(0)	0(0)	
陸上 Land	就業先別 Employment	求人	107	407	322	70	567	
		はん用・生産用・業務用機械器具製造	0	1(0)	0	0	0	三興コントロール
		電気・情報通信機械器具製造	0	3(0)	9(5)	0	3(2)	ジョンソンコントロールズ、富士電機、日立得意エンジニアリング、ほか
		輸送用機械器具製造	1(0)	2(0)	5(4)	1(0)	0	関ホチエイチ、鴻巣電機、常石造船、マツダ、ほか
		その他製造	0	8(0)	1(0)	0	1(0)	日本自動車、新中央工業、神戸ベイント、関エクス、関東製作所、ほか
		情報通信	0	1(0)	1(1)	0	0	富士通、日産電子サービス
		運輸・郵便	0	0	0	0	0	
		その他	4	3(0)	10(6)	0	2(0)	東テック、サンマーエンジニアリング、総合警備隊、関ヤマカコーキン、ほか
計	5(0)	18(0)	26(16)	1(0)	6(2)			
就職希望者に対する求人倍率			13.28	22.61	12.38	35.00	94.5	
就職希望者に対する就職率			100	100	100	100	100	

()内は、内数で女子を示す。

(出典：2012 学校要覧 P. 26)

平成23年度卒業予定者就職・進学先

商船学科 卒業予定者 23名

平成23年9月14日現在

航海コース 10名

就職(進学)先
神原ロジスティックス(株)
弓削商船高等専門学校専攻科
山丸汽船(株)
(有)福友スズキ販売
田中海運(株)
外航船船員育成スキーム
弓削商船高等専門学校専攻科
宇和島運輸(株)
戸田汽船(株)
美須賀海運(株)

機関コース 13名

就職(進学)先
未定(予定では向島造機(株))
日本マリン(株)
東京海洋大学
鹿児島船舶(株)
三徳船舶(株)
川崎汽船(株)
日本ガスライン(株)
ワールドマリン(株)
村上石油(株)
東テク(株)
ダイハツディーゼル(株)
北見工業大学
九州郵船(株)

〈電子機械工学科〉卒業予定者数 3 2名

株式会社グローバル 2名	神戸ペイント株式会社
ジョンソンコントロールズ株式会社	大洋電機株式会社 群馬工場
日本自動ドア株式会社 2名	日信電子サービス株式会社
愛媛サニタリープロダクツ株式会社	パナソニックエレクトロニックデバイス株式会社
株式会社椿本チェーン	株式会社エクス
ヤンマーエンジニアリング株式会社	渦潮電機株式会社
新中央工業株式会社	株式会社三和ドック
三興コントロール株式会社	コベルコ建機エンジニアリング株式会社
豊橋技術科学大学 3名	佐賀大学
九州工業大学	香川大学
長岡技術科学大学	弓削商船高等専門学校専攻科(生産システム工学専攻) 7名

〈情報工学科〉卒業予定者数 3 4名

愛媛県漁業協同組合連合会(県漁連)	石田造船建設株式会社
富士電機株式会社	出光興産株式会社
マツダ株式会社	株式会社瀬戸興産
コニカ・ミノルタビジネスソリューションズ株式会社	株式会社東洋製作所
株式会社イシダ	株式会社三興
株式会社マツダE&T	今治中央自動車教習所
NSウエスト株式会社	渦潮電機株式会社
ムラテック販売株式会社	株式会社アイ・エス・ディー
富士通株式会社	株式会社日立情報制御ソリューションズ
京セラ株式会社	旭化成アミダス株式会社
岩城造船株式会社	天理教本部
総合警備保障株式会社	株式会社エヌ・ティ・ティネオメイト
株式会社サイボウズ	株式会社リコー
豊橋技術科学大学 2名	千葉大学
愛媛大学	弓削商船高等専門学校専攻科(生産システム工学専攻) 4名

(出典：学生課)

卒業生の進路状況

Situation of Course of Graduates

卒業年度 Graduates		平成23年度 2011				平成22年度 2010				平成21年度 2009			
学 科 Department	進学就職別 course	就職者 Employment	進学者 University	その他 Others	計 Total	就職者 Employment	進学者 University	その他 Others	計 Total	就職者 Employment	進学者 University	その他 Others	計 Total
	商 船 学 科 Maritime Technology Department		18	4	1	23	28	12	0	40	27	8	1
電 子 機 械 工 学 科 Electronic Mechanical Engineering Department		18	14	0	32	20	4	2	26	25	12	0	37
情 報 工 学 科 Information Science and Technology Department		26	8	0	34	28	8	1	37	25	9	0	34
本 科 計 Total		62	26	1	89	76	24	3	103	77	29	1	107
海上輸送システム工学専攻 Advanced Marine Transportation Systems Engineering Course		3	0	0	3	3	0	0	3	3	0	0	3
生産システム工学専攻 Advanced Production Systems Engineering Course		6	2	0	8	6	2	0	8	10	3	0	13
専 攻 科 計 Total		9	2	0	11	9	2	0	11	13	3	0	16

(出典：2012 学校要覧 P. 25)

大学編入学状況

Situation of Entry in University

編入学年度 Entry in University		平成24年度 2012				平成23年度 2011				平成22年度 2010				平成21年度 2009				平成20年度 2008			
大学名 University	学科 Department	商船	電子機械工	情報工	商船	電子機械工	情報工	商船	電子機械工	情報工	商船	電子機械工	情報工	商船	電子機械工	情報工	商船	電子機械工	情報工		
	国立 National	室蘭工業大学 Muroran Institute of Technology																	1	1	
秋田大学 Akita University															1						
筑波大学 University of Tsukuba													1								
千葉大学 Chiba University				1			1		1												
東京海洋大学 Tokyo University of Marine Science and Technology		1				2		1	1					2							
電気通信大学 The University of Electro-Communications																1					
山梨大学 University of Yamanashi															1						
長岡技術科学大学 Nagaoka University of Technology			1										1		1				1		
豊橋技術科学大学 Toyohashi University of Technology			3	2				1		2	4				5	2					
神戸大学 Kobe University		2				1				3				2				1		1	
福井大学 University of Fukui																			1		
岡山大学 Okayama University																					
広島大学 Hiroshima University																1					
徳島大学 The University of Tokushima											1										
香川大学 Kagawa University			1								1						1				
愛媛大学 Ehime University				1												1					
九州工業大学 Kyushu Institute of Technology			1								1									2	
佐賀大学 Saga University			1																		
公立		高知工科大学 Kochi University of Technology									1										
私立	福山大学 Fukuyama University														1						
	山口東京理科大学 Tokyo University of Science, Yamaguchi												1								
	計 Total	3	7	4		3	0	3	4	7	7		4	9	6		1	3	4		

(出典：2012 学校要覧 P. 25)

専攻科修了者の就職・進学先一覧

平成22年度海上輸送システム専攻修了者3名

浪速タンカー(株)
紅洋海運(株)
喜多浦海運(株)

平成22年度生産システム工学専攻修了者8名

(株)井関松山製造所	プレス工業(株)
(株)ユタカ	パナソニック電工エンジニアリング(株)
(株)イクス	東北大学大学院
デルタ工業(株)	九州工業大学大学院

平成23年度海上輸送システム専攻修了者3名

(株)同和ライン
紅洋海運(株)
常石造船(株)

平成23年度生産システム工学専攻修了者8名

(株)日立情報制御ソリューションズ	日立情報エンジニアリング(株)2名
(株)ヤマナカコーキン	井関農機(株)
島津メディカルシステムズ(株)	岡山大学大学院
神戸大学大学院	

平成24年度海上輸送システム専攻修了者5名

神戸大学大学院	三徳船舶船舶(株)
商船三井フェリー(株)	旭タンカー(株)
スミセ海運	

平成24年度生産システム工学専攻修了者9名

日立情報通信エンジニアリング(株)2名	神戸大学大学院
(株)古川製作所	シブヤ精機(株)
(株)商港テクノサービス	富士通(株)
ダイキン工業(株)	(株)NTTネオメイト

(出典：学生課)

観点6-1-④： 学生が行う学習達成度評価等，学生からの意見聴取の結果から判断して，教育の成果や効果が上がっているか。

(観点に係る状況)

[進学士課程]

平成24年度に各学科の5年生に対して学習達成度評価の調査を行った(資料6-1-④-1-1~3)。専門知識の習得の程度を問う項目では、「身についた」，「良く身についた」と回答した学生の割合が商船学科，電子機械工学科，情報工学科で，それぞれ94%，94%，82%であり，大多数の学生は，本校が目指す技術者として必要な知識を習得しているといえる。また，忍耐力，協調性，責任感などの程度を問う項目では，「身についた」「良く身についた」と回答した学生は80%程度と高く，技術者としての倫理観が育成できているといえる。一方，英語会話・読解力の習得や国際感覚に関する項目は，電子機械工学科と情報工学科で低く，商船学科で高い評価となっている。商船学科では，現代GPや企業技術者活用プログラム，大学間連携プロジェクトを活用し，英語による乗船実習や英語キャンプを実施しているためと考えられる。工業系学科については，今後授業方法の改善が必要である。

[専攻科課程]

専攻科2年生に対して学習達成度評価の調査を行った(資料6-1-④-2-1, 2)。専門知識については，海上輸送システム工学専攻，生産システム工学専攻のいずれも「身についた」「良く身についた」が100%となっており，本校が目指す高度な技術者として必要な知識を深く習得しているといえる。また，技能力，忍耐力，協調性，責任感に関する項目も評価が高く倫理観が育成できている。さらに，理解力，表現力に関しても評価が高く，プレゼンテーション能力が育成できている。しかし，生産システム工学専攻について，創造力に関して「身についた」と回答した学生の割合は30%と低く，創造性教育に関する改善が必要である。

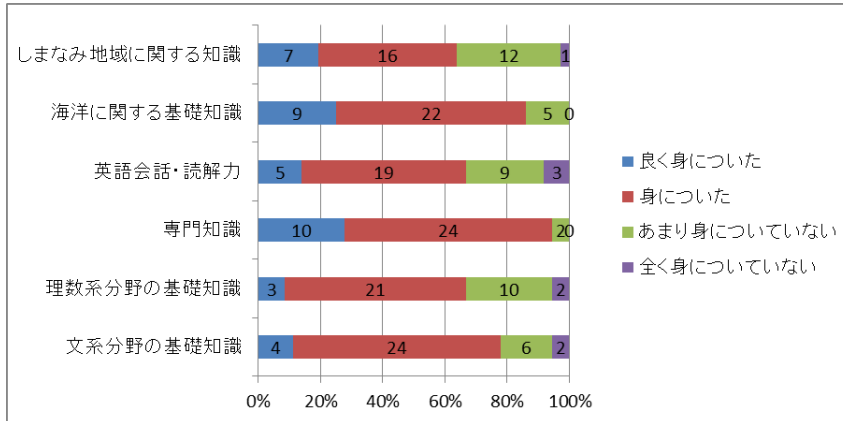
(分析結果とその根拠理由)

学習到達度評価に関する卒業(修了)時のアンケートから，改善する点があるものの，概ね教育の成果や効果が上がっており，本校の目指す実践的技術者として必要な専門知識や倫理観が育成できている。

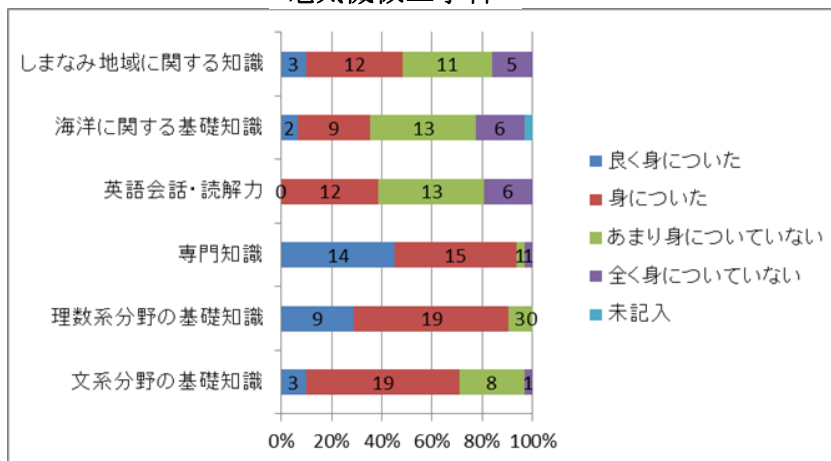
以上のことから，学生が行う学習達成度評価等の結果から判断して，学校の意図する教育の成果や効果が上がっているといえる。

学習到達度アンケート集計結果（準学士課程5年生対象）

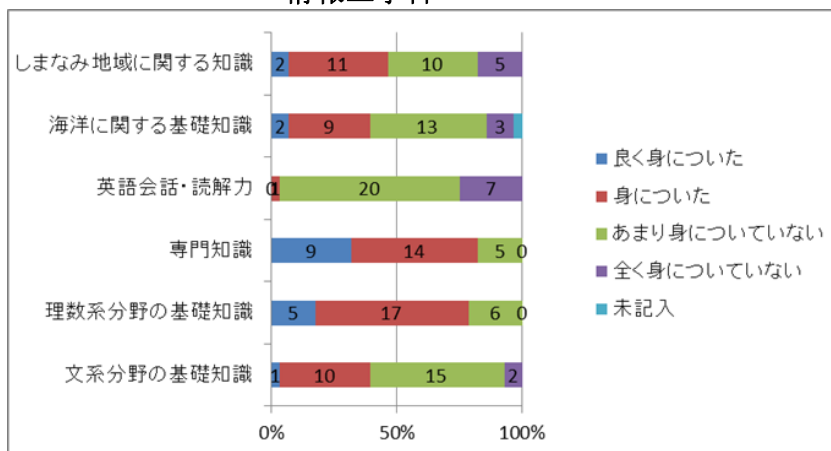
商船学科



電気機械工学科

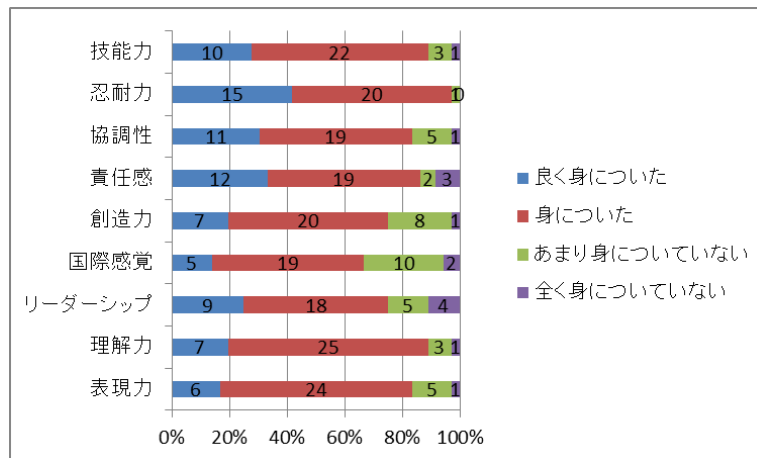


情報工学科

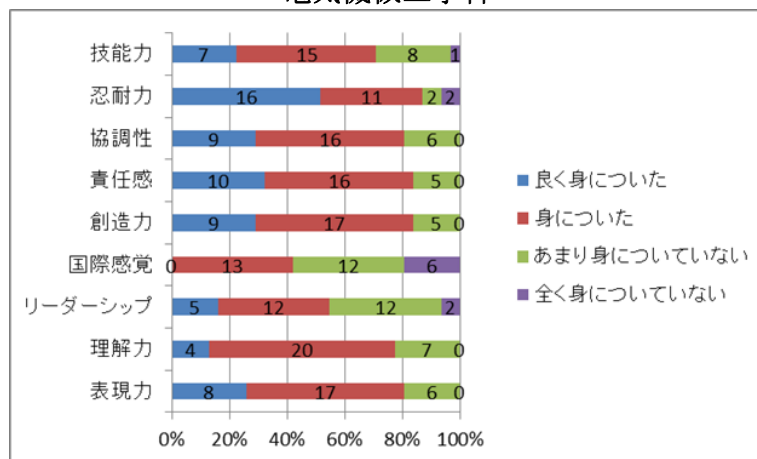


資料6-1-④-1-2

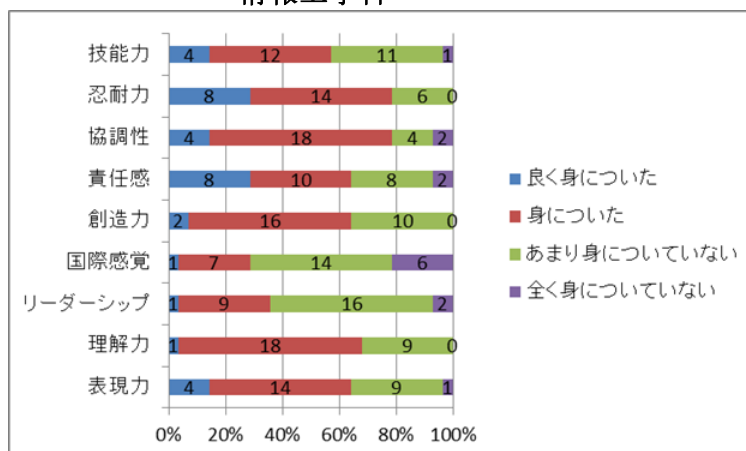
商船学科



電気機械工学科

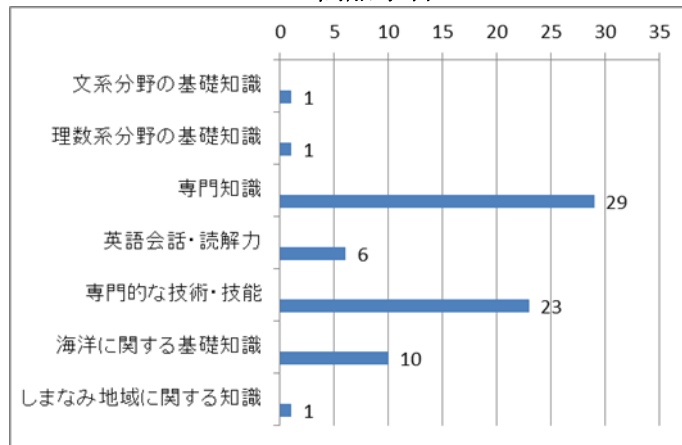


情報工学科

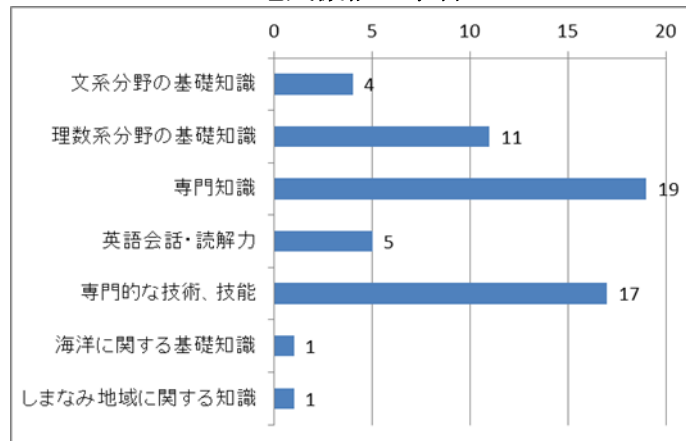


資料6-1-④-1-3

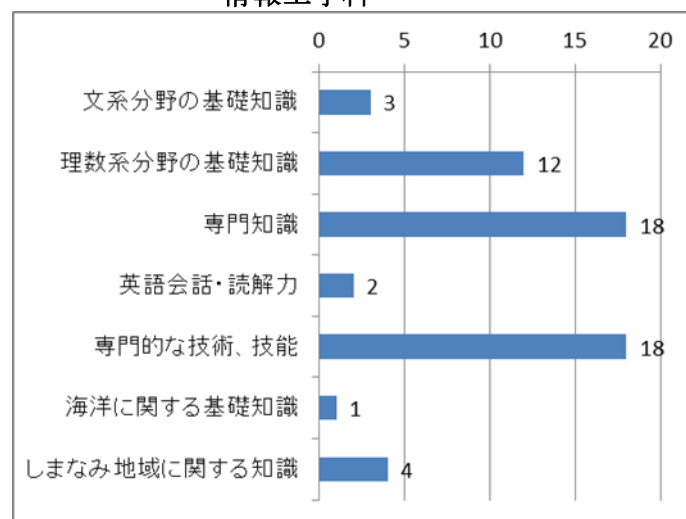
商船学科



電気機械工学科



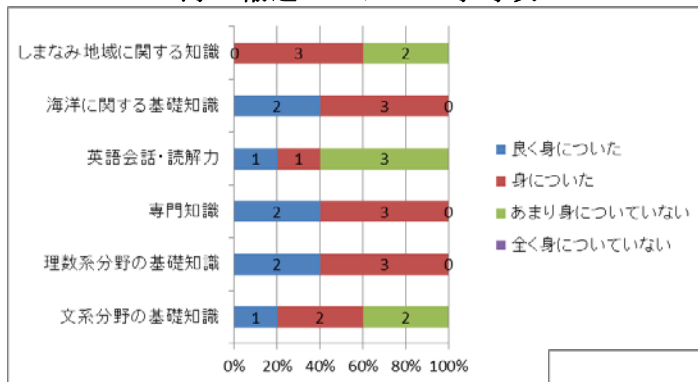
情報工学科



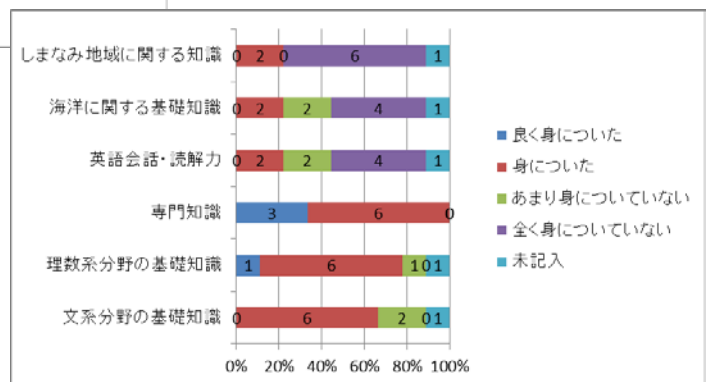
(出典：企画広報室)

学習到達度アンケート集計結果（専攻科2年生対象）

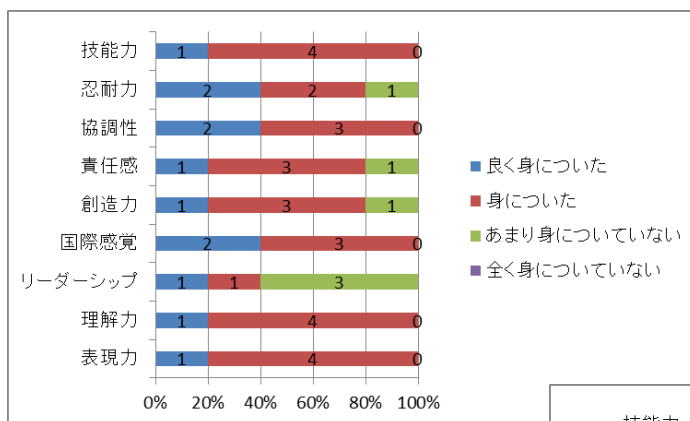
海上輸送システム工学専攻



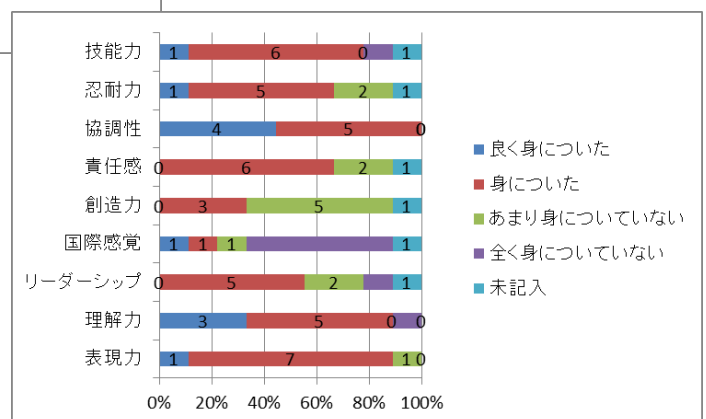
生産システム工学専攻



海上輸送システム工学専攻

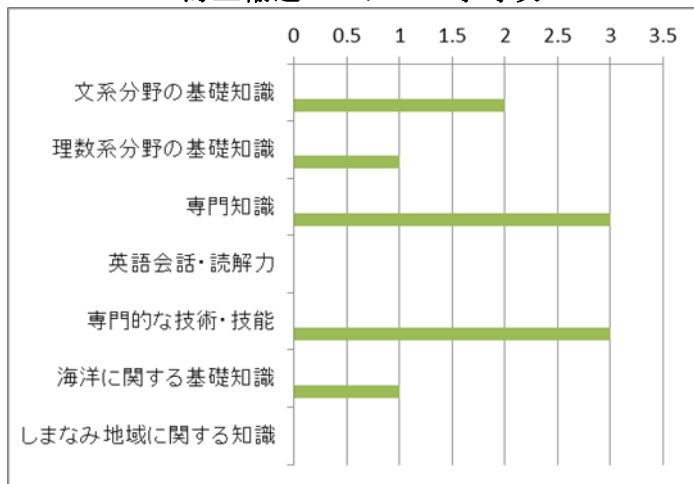


生産システム工学専攻

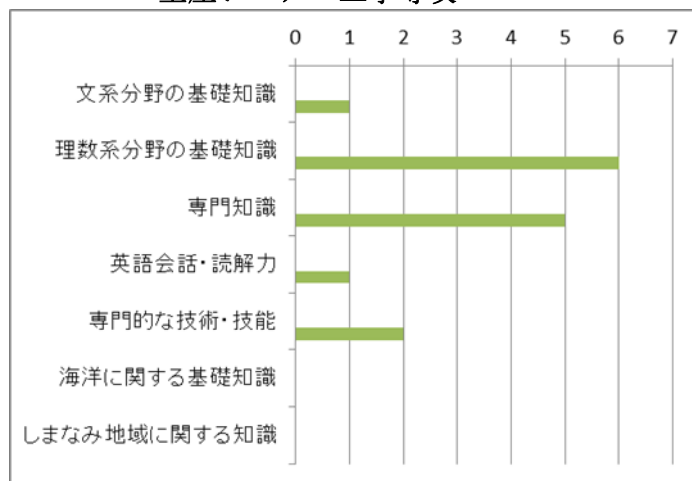


資料6-1-④-2-2

海上輸送システム工学専攻



生産システム工学専攻



(出典：企画広報室)

観点6-1-⑤：卒業（修了）生や進路先等の関係者から、卒業（修了）生が在学時に身に付けた学力や資質・能力や、卒業（修了）後の成果等に関する意見を聴取する等の取組を実施しているか。また、その結果から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。

（観点に係る状況）

過去3年間の準学士課程卒業生及び専攻科課程修了者の就職先企業と卒業（修了）生を対象としたアンケート調査を実施した。企業へは、卒業（修了）生の学力、資質、性向に関する3項目について回答を求めた（資料6-1-⑤-1, 2）。学力については、専門知識や実技系分野において優れているが、一般教養知識に劣るとの回答を得た。資質については、実践力や応用力を備えているものの、創造力や表現力に乏しいと評価された。性向については、協調性があり礼儀正しく責任感もあるが、積極性や国際性に乏しいことが指摘された。

卒業（修了）生へのアンケートは、在学中に身につけた知識に関すること、就職・進学指導に関すること、課外活動や寮生活に関することについて回答を求めた（資料6-1-⑤-3, 4）。身に付けた知識は、専門知識と実技系の技能と回答した割合が83%と高い。上述した企業へのアンケート結果による専門知識や実技系分野において優れていると一致していることがわかる。自分の身に付けた知識が発揮できているか否かの質問については「どちらとも言えない」の回答を除くと、約7割の者が役立っていると回答した。在学中に力を入れておけば良かった分野は、語学と専門基礎となっている。就職・進学指導、課外活動及び寮生活については、「適当であった」あるいは「活かされている」との評価を得た。また寮の設備についても十分であるとの評価を得た。寮生活で得たものは「友人」「協調性」「忍耐力」であると答えている。

（分析結果とその根拠理由）

卒業（修了）生とその就職先企業を対象としたアンケート調査を実施している。企業からのアンケート結果より、専門的な知識を有し実践力に優れるとの評価を得た。また、卒業（修了）生のアンケート結果から約7割の者から身に付けた知識が役に立っているとの回答を得ており、実践的技術者養成の観点から、本校の教育目的に適合しているといえる。一方、語学力、創造力、表現力が改善すべき点であることがわかった。これらに関しては、専任及び非常勤の外国人教員を採用して専門英語の教育を行い、準学士課程低学年の英語教育を「総合英語」、「英語表現」、「基礎英語」、「英語購読」に分け、その一部を各クラスを3分割した少人数教育をネイティブの非常勤講師を含めて実施するといった対策等を強化している。

以上のことから、卒業（修了）生や進路先等の関係者から、卒業（修了）生が在学時に身に付けた学力や資質・能力や、卒業（修了）後の成果等に関する意見を聴取する等の取組を実施しており、その結果から判断して、教育の成果や効果が上がっているといえる。

卒業（修了）生の就職企業先へのアンケート

このアンケートは、本校を卒業（修了）し就職した企業等より卒業生の状況についてご意見を伺い、より充実した教育等の改善を行うために実施いたします。ご協力をお願いします。

1. 御社の所属する分野を選択して下さい。

イ. 海事産業である ロ. 海事産業でない

2. 本校卒業（修了）生の学力についてお答え下さい。（ひとつ選んで下さい。）

・優れている分野は何ですか。

イ. 一般教養知識 ロ. 専門知識 ハ. 実技系 ニ. その他（ ）

・劣っている分野は何ですか。

イ. 一般教養知識 ロ. 専門知識 ハ. 実技系 ニ. その他（ ）

3. 本校卒業（修了）生の資質についてお答え下さい。（ひとつ選んで下さい。）

・優れている点は何ですか。

イ. 実践力 ロ. 創造力 ハ. 判断力 ニ. 応用力 ホ. 表現力 ヘ. その他（ ）

・劣っている点は何ですか。

イ. 実践力 ロ. 創造力 ハ. 判断力 ニ. 応用力 ホ. 表現力 ヘ. その他（ ）

4. 本校卒業（修了）生の性向についてお答え下さい。（ひとつ選んで下さい。）

・優れている点は何ですか。

イ. 協調性 ロ. 積極性 ハ. 国際性 ニ. 礼儀正しさ ホ. 責任感 ヘ. その他（ ）

・劣っている点は何ですか。

イ. 協調性 ロ. 積極性 ハ. 国際性 ニ. 礼儀正しさ ホ. 責任感 ヘ. その他（ ）

5. 卒業時に身に付けるべき学力、資質等において要望があればご記入下さい。

（出典：企画広報室）

卒業(修了)生の就職企業先へのアンケート結果

回収率 49.4% (3/21現在)

【82社/166社】

1. 御社の所属する分野を選択してください。

イ. 海事産業である	41
ロ. 海事産業でない	37
未回答	4

2. 本校卒業(修了)生の学力についてお答えください。(ひとつ選んでください。)複数回答有

・優れている分野は何ですか。

イ. 一般教養知識	10		
ロ. 専門知識	40	・なし	1
ハ. 実技系	25	・機械操作	1
ニ. その他	4	・行動力	1
未回答	5	・全体的に優れている	1

・劣っている分野は何ですか。

イ. 一般教養知識	38		
ロ. 専門知識	8	・特になし	7
ハ. 実技系	13	・コミュニケーション	1
ニ. その他	16	・分からない	1
未回答	9	・語学力	1
84		・知識、技術については問題ありませんが他者とのコミュニケーションを苦手とする傾向が	

3. 本校卒業(修了)生の資質についてお答えください。(ひとつ選んでください。)複数回答有

・優れている点は何ですか。

イ. 実践力	41	ニ. 応用力	12	・なし	2
ロ. 創造力	1	ホ. 表現力	9	・本人の資質による	1
ハ. 判断力	6	ヘ. その他	7	・素直、努力家	1
		未回答	5	・なぐられ強い	1
				・全体的に優れている	1
				・就業期間が短かった為判断不可	1

・劣っている点は何ですか。

イ. 実践力	7	ニ. 応用力	11		
ロ. 創造力	10	ホ. 表現力	24	・特になし	3
ハ. 判断力	8	ヘ. その他	13	・本人の資質による	1
		未回答	9	・コミュニケーション能力	2
				・就業期間が短かった為判断不可	1

4. 本校卒業(修了)生の性向についてお答えください。(ひとつ選んでください。)複数回答有

・優れている点は何ですか。

イ. 協調性	34	ニ. 礼儀正しさ	24
ロ. 積極性	3	ホ. 責任感	19
ハ. 国際性	0	ヘ. その他	0
		未回答	4

・劣っている点は何ですか。

イ. 協調性	4	ニ. 礼儀正しさ	1		
ロ. 積極性	35	ホ. 責任感	7	・特になし	1
ハ. 国際性	19	ヘ. その他	8	・英語力	1
		未回答	10		

(出典：企画広報室)

卒業（修了）生へのアンケート

このアンケートは、卒業（修了）した皆さんから在学していたときの内容についてご意見を伺うことにより、より充実した教育等の改善に役立てるために実施いたします。ご協力をお願いします。

※ 該当の番号に○をつけて下さい。

1. 卒業（修了）学科についてお答え下さい。

イ. 商船学科 ロ. 電子機械工学科 ハ. 情報工学科 ニ. 専攻科生産 ホ. 専攻科海上

2. 本校で特に身に付けることができた知識は何ですか。

イ. 一般教養知識 ロ. 専門知識 ハ. 実技系の技能 ニ. その他（ ）

3. 自分の身に付けた知識が、発揮できていると思いますか。

イ. 発揮できている ロ. 発揮できていない ハ. どちらとも言えない

4. 在学中、どの分野に力を入れて勉強すれば良かったですか。（複数回答可）

イ. 語学 ロ. 数学 ハ. 物理・化学 ニ. 専門基礎学（力学、電気、応数など）
ホ. 商船学（航海系） ヘ. 商船学（機関係） ト. 電気・電子系応用分野
チ. 機械系応用分野 リ. 情報工学（ソフト系） ヌ. 情報工学（ハード系）
ル. 情報工学（周辺応用技術） オ. その他（ ）

5. 在学中に受けた就職・進学指導は適切でしたか。

イ. 適切であった ロ. 適切ではなかった ハ. どちらとも言えない

6. 課外活動の経験は現在活かされていますか。

イ. 活かされている ロ. 活かされていない ハ. どちらとも言えない

以下は、寮生活を経験した人にお聞きします。

7. 寮生活の経験は現在役に立っていますか。

イ. 役に立つ ロ. 役に立たない ハ. どちらとも言えない

8. 寮の設備はどうでしたか。

イ. 十分である ロ. 不十分である ハ. どちらとも言えない

9. 寮生活で得たものは何ですか。（複数回答可）

イ. 友人 ロ. 礼儀正しさ ハ. 正しい生活習慣 ニ. 協調性 ホ. 積極性 ヘ. 独立心
ト. 忍耐力 チ. その他（ ）

（出典：企画広報室）

卒業(修了)生へのアンケート結果

回収率 26.4% (3/21現在)

【85名/322名】

1. 卒業(修了)学科についてお答えください。

イ. 商船学科	20
ロ. 電子機械工学科	26
ハ. 情報工学科	26
ニ. 専攻科生産	13
ホ. 専攻科海上	0

2. 本校で特に身に付けることができた知識は何ですか。(複数回答有)

イ. 一般教養知識	10
ロ. 専門知識	48
ハ. 実技系の技能	26
ニ. その他	4・[・社交性 1
未記入	1

3. 自分の身に付けた知識が、発揮できていると思いますか。

イ. 発揮できている	31
ロ. 発揮できていない	14
ハ. どちらとも言えない	39
未記入	1

4. 在学中、どの分野に力を入れて勉強すれば良かったですか。(複数回答可)

イ. 語学	32	ト. 電気・電子系応用分野	17
ロ. 数学	15	チ. 機械系応用分野	22
ハ. 物理・化学	10	リ. 情報工学(ソフト系)	22
ニ. 専門基礎学(力学、電気、応数など)	36	ヌ. 情報工学(ハード系)	23
ホ. 商船学(航海系)	5	ル. 情報工学(周辺応用技術)	18
ヘ. 商船学(機関系)	11	オ. その他	4
		・IT	1
		・資格勉強(取得)	1
		・読書術	1
		(学習するための方法論を得てはじめて学習がおもしろくなるから)	

5. 在学中に受けた就職・進学指導は適切でしたか。

イ. 適切であった	47
ロ. 適切ではなかった	10
ハ. どちらとも言えない	28

6. 課外活動の経験は現在活かされていますか。

イ. 活かされている	43
ロ. 活かされていない	9
ハ. どちらとも言えない	33

以下は、寮生活を経験した人にお聞きします。

【48名/寮生】

7. 寮生活の経験は現在役に立っていますか。

イ. 役に立つ	39
ロ. 役に立たない	2
ハ. どちらとも言えない	7

8. 寮の設備はどうかでしたか。

イ. 十分である	29
ロ. 不十分である	11
ハ. どちらとも言えない	7
未記入	1

9. 寮生活で得たものは何ですか。(複数回答可)

イ. 友人	37	ホ. 積極性	6
ロ. 礼儀正しさ	13	ヘ. 独立心	21
ハ. 正しい生活習慣	13	ト. 忍耐力	24
ニ. 協調性	27	チ. その他	0

(出典：企画広報室)

(2) 優れた点及び改善する点

(優れた点)

準学士課程においては、プログラミングコンテスト等の各種コンペティションで文部科学大臣賞や「日本ものづくり大賞（内閣総理大臣賞）」の受賞実績を上げており、創造性教育の成果が顕著に表れているといえる。また、進学率や就職率はほぼ100%に近く、本校の卒業生の能力の高さが評価されているといえる。

専攻科においては、特別研究でまとめた論文について軽金属学会優秀講演賞などの学会賞を贈られるなど専門分野についての評価が高いものとなっている。

(改善を要する点)

学習達成度アンケートや卒業生、就職企業に対するアンケートから得られた結果は概ね良好であったが、幾つか上がってきた改善項目については改善の余地がある。

(3) 基準6の自己評価の概要

人物像の育成等に照らして履修及び修得する科目を配置し、全体の達成状況は、教員会議や教務委員会、専攻科委員会、分科会によって把握・評価されている。学生の学習達成度アンケート結果は、自己点検評価委員会で分析し、教育改善に役立てている。

準学士課程及び専攻科で各学年や卒業（修了）時において、学生が身に付ける学力や資質・能力については、単位取得状況、資格取得状況、各種コンペティションの受賞及び学会関係の受賞状況から判断しても十分に教育効果が上がっているといえる。

就職先の職種についても、各学科の養成する人材像に適合しており、また、進学先についても本校で学んだ専門分野に進んでいることから、養成しようとしている人材像に適合した教育の成果が上がっている。

学習到達度評価に関する卒業（修了）時のアンケートから、改善する余地があるものの、概ね教育の成果や効果が上がっており、本校の目指す実践的技術者として必要な専門知識や倫理観が育成できている。また、卒業（修了）の就職先企業からのアンケート結果より、専門的な知識を有し実践力に優れるとの評価を得ており、卒業（修了）生のアンケート結果からは、約7割の者から身に付けた知識が役に立っているとの回答を得たことから、概ね良好な結果を示しており、実践的な技術を習得した学生を送り出すことができていると判断される。